

公刊書「バズ学習による授業改善」発刊記念

これからの授業をさぐる研究会

研究主題

バズ学習による授業改善

一単元単位による学習指導の工夫一

期日 昭和 56 年 10 月 30 日 (金)
13:00 ~ 16:30

会場 滋賀県神崎郡五個荘町立五個荘小学校
[REDACTED]

主催 滋賀県神崎郡五個荘町教育委員会
滋賀県神崎郡五個荘町立五個荘小学校

日 程

時刻	12:30	13:00	13:45	14:00	14:20	16:20	16:30
日 程	受 付	学 習 公 開	会 場 移 動	全 体 集 会			
				あいさつ 発刊の経緯	レクチャー・フォーラム テーマ 「これからの授業と学力」	閉会の ことば	

学 習 公 開 (全学級) 13:00 ~ 13:45

学 年 級	教 科	単 元 ・ 題 材	場 所	指 導 者
1 の 1	理 科	うごくおもちゃ	1 の 1 教室	北 村 三 郎
1 の 2	算 数	けいさんのけいこ(2)	1 の 2 教室	小 梶 和 子
1 の 3	書 写	む す び	1 の 3 教室	吉 田 明 美
1 の 4	算 数	たし算とひき算(2)	1 の 4 教室	小 川 征 子
2 の 1	国 語	ことばのべん強	2 の 1 教室	竹 田 裕 子
2 の 2	算 数	大きなかず	2 の 2 教室	里 田 俊 子
2 の 3	算 数	大きなかず	2 の 3 教室	澤 村 恵 美 子
2 の 4	社 会	工場ではたらく人々	2 の 4 教室	米 田 真 由 美
3 の 1	体 育	長くつつけて走る	運 動 場	福 島 寿 夫
3 の 2	音 楽	あわてんぼうの歌	3 の 2 教室	木 下 千 鶴
3 の 3	算 数	円 と 球	3 の 3 教室	伏 木 清 史
3 の 4	算 数	円 と 球	3 の 4 教室	福 島 千 代 子
4 の 1	算 数	四 角 形	4 の 1 教室	沼 田 明 美
4 の 2	理 科	物のとけ方	4 の 2 教室	吉 岡 順 子
4 の 3	国 語	小さな青い馬	4 の 3 教室	高 村 博
4 の 4	社 会	地図の見方	4 の 4 教室	徳 田 慶 子
5 の 1	音 楽	合唱のひびき	高 音 楽 室	大 鹿 史 子
5 の 2	理 科	酸素と二酸化炭素	第 1 理 科 室	友 本 志 津 雄
5 の 3	音 楽	合唱のひびき	5 の 3 教室	加 藤 雅 子
5 の 4	音 楽	合唱のひびき	低 音 楽 室	田 附 昭 良
6 の 1	算 数	平均とちらばり	6 の 1 教室	石 部 清 和
6 の 2	社 会	明治維新	6 の 2 教室	野 瀬 隆
6 の 3	理 科	力とてこ	6 の 3 教室	小 倉 玉 子
6 の 4	算 数	平均とちらばり	6 の 4 教室	谷 一 美
養 育 1	書 写	大きく書く	養 1 教室	成 宮 治 子
養 育 2	生 活	風 車	養 2 教室	大 川 と み 江

全 体 研 究 会 （ 体 育 館 ） 14:00 ~ 16:30

(1) あ い さ つ 五 個 荘 小 学 校 長 西 村 博

(2) 公 刊 書 発 刊 の 経 緯 に つ い て 著 者 (実 践 者 側) 横 田 證 眞
前 五 個 荘 小 学 校 長

(3) レ ク チ ャ ー ・ フ ォ ー ラ ム

テ ー マ 「 こ れ か ら の 授 業 と 学 力 」

司 会 名 古 屋 大 学 名 誉 教 授 塩 田 芳 久 先 生

(提 案 内 容)

講 師 滋 賀 大 学 教 授 高 旗 正 人 先 生 小 集 団 に よ る 話 し 合 い 学 習

中 京 大 学 助 教 授 杉 江 修 治 先 生 単 元 単 位 の 見 通 し 学 習

滋 賀 県 教 育 委 員 会 事 務 局 水 野 清 先 生 新 し い 時 代 に の ぞ ま れ る 学 力
教 務 部 学 校 教 育 課 参 事

本 校 教 諭 高 村 博 子 ど も の 自 己 評 価

(4) 閉 会 の こ と ば 五 個 荘 町 教 育 長 入 谷 誠 一 郎

学 习 指 导 案

理科学習指導案

(1年1組)

指導者 北 村 三 郎

1 単元名 うごくおもちゃをつくろう 1

2 単元目標

認知的 (1) 身近にある材料を使って、風で動くおもちゃを作り、それを動かして楽しく遊び、おもちゃの動き方に興味をもつことができる。

(2) 風の動きや強さを意識するとともに、おもちゃの動き方が異なるように、工夫して作りかえたり、動き方をかえたりすることができる。

(3) 動くおもちゃのしくみや動かし方、動くようすの違いから、風のはたらきに気づくことができる。

態度的 A おもちゃを風の向きや強さなどに目をつけて動かしたり、より速く、より速くまで動かすために工夫したり、作りかえたりしようとする。

B 友達の方を見て話したり、話している友達の顔を見てよく聞こうとする。

3 教材の取り扱い

現代のこどもは、幼児期のころからいろいろなおもちゃを手にし動かして遊んでいるが、それらのおもちゃは、すでに完成されたものであり、また、電気などで動くメカニクなものほとんどで、低学年の子どもが自分で工夫して作りかえることなどとうていできない。そんな子どもが、身近にある物を使って「動くおもちゃ」を自分の手で工夫して作り、それを動かして遊ぶとき、考える力は育ち、ほんとうに楽しい学習が展開されるものとする。

この単元では、風で動くおもちゃを工夫して作らせ、できたという喜びや、それを動かしたりさせながら、よりよく改善しようとする意欲を育てるとともに、風には物を動かす力があることに気づかせ、更にはその過程において風の働きのおもしろさに目を向けさせることである。

したがって、この学習を通して、遊び本来の長所を生かし、児童が自発的な姿で活動する学習を大切にしたい。おもちゃの製作にあたってはひとりひとりのこどもに成功感を味わわせるように配慮していきたい。また、物との出会いを大切にさせ、身近にある物から材料を選ぶことができるようにもさせたい。

4 学習計画

区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時 間
第 1 次 おもちゃづくり	1. プリテストをする。 2. 風で滑って動く簡単なおもちゃを作り、動かして遊ぶ。	○ 力ためしをしよう。 ○ 口で吹いて動くヨットを作ろう。	1
第 2 次 おもちゃで遊ぶ	3. 風でころがるおもちゃ 風輪(1輪、2輪)を作り、転がして遊ぶ。	○ よく転がる風輪をくふうしてつくろう。	2

	4.団扇などで風を送り、速く転がしたり、ゆっくり転がしたりする。	○風輪のいろんなころがし方をみつけ、たしかめよう。	本時 (2/2)
第3次 おもちゃの 工夫	5.風で動く車を作って走らせる。 6.風受けをいろいろ工夫して作り車にとりつけてよりよく走らせる。	○風で動く車を作ろう。 ○よく走る車にするため、風受けを工夫してつけよう。	2
第4次	7.ポストテストをする。	○力だめしをしよう。	1

5 本時の目標

- 認知的 ○ 二輪の風輪を転がし、風の強さによって転がり方に違いのあることに気づくことができる。
- 態度的 A 団扇などで風の送り方を考え風輪をうまく転がそうとする。
B 話しする友達の方を見ながら聞こうとする。

6 展開

学習課題		風輪のいろんなころがし方（はやく・おそく）をみつけ、たしかめよう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準備	1.本時の課題を確認する。	○風輪ころがしでおもしろかったこと、困ったことなど話し合わせ乍ら本時の課題をつかませる。	○課題をはっきりつかんだか。
中	2.屋内で転がす方法を話し合う。	○体育館や教室など風のない所で転がす方法を考えさせる。	
心	3.いろいろな転がし方について考え話し合う。 ○ひとりで予想する。 ○ふたりで話し合う。 ○みんなで話し合う。	○いろいろなころがし方の競争を考えさせ、ころがせ方と風のある方について予想させる。 ・ゆっくり転がすとき、早く転がすとき、遠くまで転がすときなど本時までの経験をもとに	○友達の考えがしっかり聞けているか。
	4.風輪を転がす競争をする。	○遊びのルールをつくり、楽しく競争して遊ばせる。（場所を決め交代しながら実験させる。）	○風の強さなど考え転がせたか。
確認	5.結果のまとめと学習の要点を確認する。 6.次時の学習を知る。	○風の様子で風輪の転がり方が違うことに気づかせていく。	○風と転がり方の関係に気づいたか。

7 確認の要点

- 風輪をはやく転がすには……（うちわで ）
- 風輪をゆっくり転がすには…（うちわで ）
- お話をする友達の方を見てしっかり聞けましたか。

算数科学習指導案

(1年2組)

指導者 小 梶 和 子

1 単元名 けいさんのけいこ (2)

2 単元目標

- 認知的 (1) 1位数と1位数をたして、和が10以上になる場合のたし算が確実にできる。
(2) 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる場合のひき算ができる。
- 態度的 A たし算やひき算の計算を、早く、正しくしようとする。
B 声のものをさしに合わせて話そうとする。

3 教材の取り扱い

けいさんのけいこ(1)では、くり上がり、くり下がりのない1位数と1位数の加法・減法を学習したが、子ども達の計算能力に、かなり著しい個人差が見受けられた。

そこで、たし算・ひき算の計算カードを使って、ゲーム・パズル・ぬり絵など、具体的な操作活動を多く取り入れて計算の習熟を図ったところ、楽しみながら取り組むことができ、ある程度、反射的に結果を求められるようになった。

従って、本単元もたし算ひき算の意味・原理・方法を十分理解させた上で、すべての子どもが参加できる「算数遊び」、具体的な操作活動の場面を取り扱うことにした。

取り扱うにあたっては、子ども達なりの約束ごとやきまりを工夫して作る楽しさ、それらを守る大切さも体得させて、友達どうし助け合いながら共に進んでいくという連帯意識と、どんな子にも「わかった」「できた」という喜びを味わわせて、次の活動への意欲となるよう進めていきたい。

また、本単元指導後も、機会を捉えて反復練習をさせ、計算技能の低下を防ぎ定着させるよう配慮しなければならない。

4 学習計画

区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時 間
第 1 次 学 習 計 画	1. プリテストをする。 2. プリテストの結果や教科書を見て、どんなことを学習していくのかを知る。	○力だめしをしよう。 ○これからの学習について調べよう。	1
第 2 次 た し 算	3. たし算カードを使って計算練習をする。 4. ゲームを通して、たし算の計算練習をする。	○答えのカードを見つけよう。 ○答えをまちがわないように、たし算ゲームをしよう。	3
第 3 次 ひ き 算	5. ひき算カードを使って計算練習をする。	○答えのカードを見つけよう。	3

	6.ゲームを通して、ひき算の計算練習をする。	○答えをまちがわないように、ひき算ゲームをしよう。	本時 (2/3)
第4次 れんしゅう	7.「れんしゅう」をする。	○練習問題をしよう。	2
第5次 まとめ	8.ポストテストをする。	○力をためそう。	1

5 本時の目標

- 認知的 ○ 10いくつかから1位数をひく、ひき算ができる。
- 態度的 A ひき算の計算を正しく、けいこしようとする。
- B 声のものさしに合わせて、話そうとする。

6 展開

学習課題		答えをまちがわないように、ひき算ゲームをしよう。	
区分	学習活動	指導上の留意点	評価
準備 中 心 確 認	1. 本時の課題を確認する。 くり下がりのあるひき算ゲーム	○競争するため間違いが多くな らないよう、正しくできることを 強調する。	○課題がわか ったか。
	2. ゲームの仕方を知る。 進め方、点数のつけ方、や くそくごとなど	○組ませる相手は、できるだけ進 度が同じ程度の子とする。	○ゲームの仕 方がわかっ たか。
	3. ふたりでゲームをする。 結果を発表し合う。	○答えの正誤をシールで貼って明 示させる。	○答えの間違 いはどの程 度だったか。
	4. 4人でゲームをする。 式と答えをノートに記入す る。 結果を発表し合う。	○勝負を軽く取り扱う。 ○ふたりゲームと同じやり方だが 書く作業を取り入れ、定着を深 めたい。	○声のものさ し②で話せ ているか。
	5. 確かめのゲームを先生とす る。 よくできたわけを話し合う。	○算法のおさらい。	
	6. 次時の学習を知り、本時の自 己評価をする。	○早く、正しくできる大切さを伝 えておく。	○楽しくゲー ムできたか。

7 確認の要点

- けいさんの答えが、いくつあいましたか。
- 声の大きさは、ちょうどよかったですか。

国語科書写学習指導案

(1年3組)

指導者 吉田明美

1 単元名 むすび

2 単元目標

認知的 ○ 文字にむすびのあることを理解し、「な」、「す」のむすびの筆使いが、正しくていねいに行える。

態度的 A ひらがなのむすびに気をつけて、書こうとする。

B 友だちの話を、しっかり聞こうとする。

3 教材の取り扱い

入学して以来、ひらがなの書き順を重点的に指導し、二学期半ばになると、全員が、五十音の読み書きが全部できるようになった。また一字一字の字形を取り上げて指導したにもかかわらず、それらは、断片的で、定着度は、いささか低い。そこで、ひらがな全部を覚えきった今のこの時期に、ひらがな文字を共通要素を持つ文字群に分けて、効果的に指導したいと考えるものである。

一年生の手首は、まだ発達が十分とはいえず、子どもの文字を書く動きも、複雑きわまらない。特に、本単元、むすびのある文字は、子どもにとって、最も抵抗のある文字の一つである。そこで、できるだけ単一的な動きで、直線的で等圧な文字を、正しく、ていねいに書かせたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 プリテスト	1.むすびのある文字を、どのように書くかのプリテスト。	○これからのかだいをみつけよう。	1
第2次 むすび(1)	2.「な」、「ま」のむすびの筆使いを理解して書く。	○「な」や、「ま」のむすびがただしくかけるようにしよう。	1
第3次 むすび(2)	3.「む」、「す」のむすびの筆使いを理解して書く。	○「む」や、「す」のむすびがただしくかけるようにしよう。	1 本時 1/1
第4次 ポストテスト	4.定着度を知るための調査とポストテスト。	○力がついたかためそう。	1

5 本時の目標

認知的 ○ 「む」、「す」のむすびの筆使いを理解し、形に気を付けて、正しくていねいに書くことができる。

態度的 A 「む」、「す」のむすびの書き方の約束を見つけて、ていねいに書こうとする。

B 話している友だちのほうを見て、よく聞こうとする。

6 展 開

学習課題		「む」や「す」のむすびが、ただしくかけるようにしよう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準備	1.学習課題を確かめ、学習のめあてを知る。	○本時の課題、めあてを知らせる。	○課題、めあてがわかったか。
中	2.お手本と比べて、どの「む」「す」のむすびが一番よいか見つける。 ア)ひとり学習。 イ)グループで話し合う。 ウ)全体で話し合う。	ア) 黒板に貼り出した文字とお手本を比較させ、自分なりの考えを持たせる。 イ) 自分が選んだむすびが、どうして一番正しいのか、理由を話し合わせる。 ウ) いろいろな理由を出し合わせて、共通理解させる。	○自分の考えが持てたか。 ○声のものさし2が守れているか。 ○友だちの方を見て、よく聞けたか。
	3.「む」、「す」のむすびの部分を練習する。	○一番正しいむすびを、練習させる。	○むすびの部分だけ練習できたか。
確認	4.「む」「す」を書く。	○フェルトペンで、5cm×5cm大の用紙に書かせる。	
	5.第1次で書いた文字と、4で書いた文字を比較する。	○むすびの所がよくなっているか自己評価させる。	○よいむすびができているか。
認	6.本時のまとめと次時の予告をする。		

7 確認の要点

- まえよりもじょうずに、むすびがかけましたか。
- ともだちのほうをみて、おはなしがきけましたか。

算数科学習指導案

(1年4組)

指導者 小川 征子

1 単元名 たし算とひき算 (2)

2 単元目標

認知的 (1) 1位数と1位数をたして、和が11以上になる場合のたし算の原理、方法を理解できる。

(2) 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になる場合のひき算の原理、方法を理解できる。

態度的 A 10のまとまりに着目して、たしたりひいたりしようとする。

B 話している友だちの方を見て、よく聞こうとする。

3 教材の取り扱い

まだまだ具体物を手放せない児童もいるが、算数といえば、計算することと思ひ、計算ができることが算数がよくできることと思っている児童が多い学級の実態である。たし算やひき算の答えがすらすら言えることは、確かに楽しそうで、計算カードを用いた練習でも、素早く答えを言ってみせて得意になっている児童も多い。反面、これまでの授業では式の意味や計算の方法についての関心や追求心は弱く、それらの学習では活躍する児童に限られがちであった。言葉での表現が未熟なためであろうか。粘り強く思考する態度が育っていないためであろうか。

本単元での取り扱いでも、とにかく答えが言えればいい…という式の児童の性急な考えに流されず、計算にもいろいろな方法があることを理解させ、その中からより良い方法を自分たちで見つけ出させることを大切にしていきたいと思う。そのためにも、できるだけ児童が自分の考えを出し合えるよう、具体的な場面に置きかえて、計算の方法を見つけて出させたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 プリテスト	1.プリテストをする。 2.テスト結果や教科書を見て、どんなことを学習していくのかを知る。	○力だめしをしよう。 ○これからの学習についてしらべよう。	1
第2次 たし算	3.加法の場の理解を深め、 $8+6$ のような計算のしかたを理解する。 4. $8+6$ のような計算のしかたを定着する。	○ $8+6$ の計算のしかたを見つけよう。 ○ たし算の練習をしよう。	2
第3次 ひき算	5.減法の場の理解を深め、 $13-8$ のような計算のしかたを理解する。	○ $13-8$ の計算のしかたを見つけよう。	3 本時 (1/3)

	6.13-8のような計算のしかたを定着する。 7.ひき算をするとき、減数を分解する方法と、被減数を分解する方法を比べ、その良さを捉える。	○ひき算の練習をしよう。 ○13-4は (13-3-1) このふたつの式の (10-4+3) 違いを見つけよう。	
第4次 練習	8.たし算・ひき算の練習をする。	○たし算・ひき算の練習をして力をつけよう。	2
第5次 ポストテスト	9.ポストテスト及びまとめをする。	○力をためそう。 ○まちがいを直そう。	1

5 本時の目標

- 認知的 ○ 10いくつから1位数をひくひき算がわかる。
- 態度的 A 数のまとまりに目をつけて、計算のしかたを見つけようとする。
B 話している友だちの方を見て、よく聞こうとする。

6 展 開

学習課題		13-8の計算のしかたを見つけよう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備	1.本時の学習課題を確認する。 ・10より多い数からひくこと。 ・具体物を用いて考えること。 ・数のまとまりに着目すること。	○13-8を具体的な場に置きかえて考えるよう指示する。 ○答えを出すことより、計算のしかたを考えるのであることを強調する。	○課題を理解し具体的な場で考えようとしているか。
中	2.13-8の計算のしかたを考える。 ・ひとり学習 ・グループで話し合う。 ・全体で種々の考えを出し合う。 ⑦13-3-5 10-8+3 数えびき など	○友だちの方を見てよく聞き、自分のしかたと友だちのしかたの相違に気づかせる。	○おはじきを動かしながら話せたか。 ○友だちの方を見てよく聞けたか。
心	3.集まった考えの整理をする。	○いろいろなしかたに気づかせる。	○数のまとまりに着目して計算したか。
確 認	4.15-8の計算のしかたを、おはじきを用いて言う。 5.次時の予告 6.「よく聞けたか」をふりかえる。	○具体物の操作と言葉が合っているか確かめる。 ○練習をすることを知らせる。	

7 確認の要点

- 15-8の計算のしかたを言いましたか。
○友だちの方を見て、よく聞けましたか。

国語科学習指導案

(2年1組)

指導者 竹田裕子

1 単元名 ことばのべん強

2 単元目標

認知的 (1) 言葉集めなどをして、類縁語・類義語・対義語を見つけ、言葉の類縁関係をとらえることができる。

(2) 言葉の意味や使い方を考えて、正しい表現ができる。

態度的 A すすんで言葉集めや文作りなどをしようとする。

B なかよく話し合いをすすめ、自分の考えを言おうとする。

3 教材の取り扱い

子どもたちは、これまでに主語と述語、修飾語と被修飾語の関係、助詞の使い方などの文法を学習し、文作りに生かしてきた。本単元では、それらをうけて、形容詞を手掛りとして言葉と言葉の結びつきや言葉の意味、言葉の使い方などを学習し、言語感覚を養うことを目的としている。

教材は、「明るい」という言葉が、どのような言葉と結びつくか、結びつかないかを考えさせるように意図されている。しかし、教材文の読解や知的理解におわらず、言葉集めやなかま分け、文作りなどの作業をすることによって、言葉の意味の一般的法則を子ども自身で見つけ出すような学習を展開させたい。

指導においては、子ども自身の経験を大切に、言葉と結びついた経験を発表させるなどして、児童主体の楽しい活動の中で言葉を広めたり深めたりしたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 学習計画	1. プリテストから学習内容を知り学習計画を立てる。	○ プリテストをして学習計画を立てよう。	1
第2次 明るいという言葉	2. 「明るい」の類縁語を見つける。 3. 「明るい」の類縁語を意味の上から分類する。 4. 対義語「暗い」の類縁語・類義語を見つける。	○ 「明るい□□」によく合う言葉をたくさん見つけよう。 ○ 集めた言葉を目で見える、見えないなどのわけで、なかまにしよう。 ○ 「暗い□□」によく合う言葉を見つけて、同じへやに入れよう。	3
第3次 ようすをあらわす言葉	5. いろいろな形容詞について、類縁語・類義語・対義語を見つける。	○ 同じへやに「高い」や「低い」につづく言葉をたくさん入れよう。	3 本時 (1/3)

		<ul style="list-style-type: none"> ○「長い」や「深い」につづく言葉をたくさん集めてかんなんな図に書こう。 ○ようすをあらわす言葉をたくさん集めて、言葉作りをしよう。 	
第4次 文作り	6.ようすをあらわす言葉を使って表現活動をする。	○今まで集めた言葉を使って文やしを作ろう。	1
第5次 力だめし	7.ポストテストをする。	○力をためそう。	1

5 本時の目標

- 認知的 ○ 「高い」や「低い」の意味や使い方がわかる。
- 態度的 A 「高い」や「低い」につづく言葉をたくさん見つけようとする。
- B ノートを見せたりしながら、みんなにわかりやすく話そうとする。

6 展 開

区分	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備	1.本時の学習課題を確認し、めあてをはっきりさせる。	○よく似た意味の言葉同志をまとめながら言葉を集めていくことが、課題であることをはっきりさせる。	○すすんで課題にとりくもうとしたか。
中	2.「高い」の類縁語や類義語を見つける。 ・ひとり学習でたくさん見つける。	○前次「明るい」の学習の時より数多く見つけられるように指示し、意欲をもたせる。	○自分一人で前よりも多く見つけられたか。
心	・グループで、わけた理由をつけて言葉を出し合う。	○ノートをみんなに見せて話させる。	○ノートをみんなの前に出して言えたか。
確 認	・全体で、多くの言葉を集め、意味の広がりについて話し合う。	○友だちの集めた言葉を知り、言葉の多様性に気づかせる。	○言葉のいくつもの使い方がわかったか。
	3.「低い」の類縁語や類義語を、2で見つけた言葉に対応させて考える。	○類縁語や類義語から、言葉の意味や使い方を理解させる。	○「高い」で集めた言葉に対応させて言えたか。
	4.次時の予告	○類義語が少ない場合は、補う。	
		○グループで順番に言わせる。	
		○対応しない言葉があるので、気をつけさせる。	
		○「長い」「深い」の言葉集めへ意欲づける。	

7 確認の要点

- へやの中に、前よりもたくさん言葉を入れられましたか。
- ノートをみんなに見せて、お話しできましたか。

算数科学習指導案

(2年2組, 3組)

1 単元名 大きな かず

2 単元目標

- 認知的 (1) 4位数について、十進位取り記数法、命数法による数の表し方を理解する。
(2) 4位数について、数の大小、順序などの理解を深める。
(3) 3位数までの加法で、くり上がりが続く計算の原理、手順、方法を理解する。
(4) 3位数までの減法で、くり下がりが続く計算の原理、手順、方法を理解する。
- 態度的 A 既習のくり上がり、くり下がり1回の計算をもとにして位に目をつけ2回、3回の筆算のしかたを見つけようとする。
B 仲よく話し合いをすすめ、自分の考えを言おうとする。

3 教材の取り扱い

1000をこえる数の指導は、具体物を1つずつ数える操作活動では困難である。したがって10ずつ、100ずつ、1000ずつまとめて、それぞれの大きさごとにまとめて数えたりする活動を通し数の大きさを捉えるようにする。

たしざんでは、くり上がりが2回、3回連続するために子どもに抵抗がある。

(計算) → (くり上がり記憶) → (計算) → (くり上がり記憶) → (計算) の複雑な手順を行うからである。

そこで『単元2 たしざん』のところで学習した計算方法から類推して計算の手順を発見させるようにしたい。

ひき算では、くり下がりの操作が2回連続するために、くり下がる数を重複して記憶していかなければならないため誤りが多くなる。いずれも既習の計算方法をもとにして計算のしかたを考えさせたい。

4 学習計画

区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時 間
第 1 次 学 習 計 画	1. プリテストから学習内容を知り 学習計画を立てる。	○ プリテストをして学習計画を立てよう。	1
第 2 次 1000 より 大きい かず	2. 4位数の命数法、記数法、構成 について理解する。 3. 4位数の大小を判断する。	○ いんさつで使う紙は、みんな で何枚か数えることができる ようにしよう。 ○ 3500 と 5300 はどちらが大き いかくらべよう。	3

	4. $45\square 8 > 4569$ などの \square にはいる数を求める。	○どちらが大きいか考えて \square に数字や $<$, $>$ を入れる問題を解こう。	
第 3 次 たしざんと ひきざん	5. くり上がりが続く 3 位数の加法の筆算形式を理解する。 6. くり上がりが続く 3 回続く加法の筆算形式を理解する。 7. くり下がりが続く 3 位数の減法の筆算形式を理解する。 8. 被減数に空位があり、くり下がりが続く減法の筆算形式を理解する。	○ $326 + 298$ を筆算で計算するしかたを見つけよう。 ○ $587 + 465$ を筆算で計算するしかたを見つけよう。 ○ $642 - 375$ を筆算で計算するしかたを見つけよう。 ○ $600 - 347$ を筆算で計算するしかたを見つけよう。	5 2 の 3 本時 (2/5) 2 の 2 本時 (3/5)
第 4 次 まとめの れんしゅう	9. くり上がりが続く 3 位数の加法を筆算で解く練習をする。 10. くり下がりが続く 3 位数の加法を筆算で解く練習をする。	○ くり上がりのある筆算のれんしゅうをしよう。 ○ くり下がりのある筆算のれんしゅうをしよう。	2
第 5 次 評価 力だめし	11. ポストテストをする。	○ ちからだめしをしよう。	1

(2年2組)

指導者 里田俊子

5 本時の目標

- 認知的 ○ 3位数－3位数で、くり下がりが続く計算のし方がわかり筆算で計算できる。
 態度的 A 計算用数図を操作しながら具体的にくり下がりをつかまえていこうとする。
 B 友だちの前に数図を出してわかりやすく説明しようとする。

6 展 開

学習課題		642－375をお金をつかって、ひっさんで計算するし方を見つけよう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準備	1.学習課題を確認する。	○数玉を使って解き方を考えることが本時のねらいであることをおさえる。	○課題に意欲を示したか。
中	2.642－375の筆算のし方を考える。 ○くり下がりに気をつけてひとり勉強をする。 ○計算用数図をグループで操作して正しい答を見つけ出す。 ○集まった考えについて全体で話し合う。 ○642－375の筆算のし方をたしかめる。	○351－128（既習）と、どこがちがうか考えながら計算のし方を考える手がかりとさせる。 ○自分の考えと友だちの考えを比べさせて正しい計算の手順方法を考えさせる。 ○くり下がりが続く場合もくり下がり1回の場合と同じ操作であることに気づかせる。 ○計算用数図を操作しながら数字でおさえていく。	○くり下がりに気をつけているか。 ○みんなが考えを出しあえたか。 ○2回くり下がる意味がわかったか。 ○2回くり下がり処理理解できたか。
心	3.853－298を全体で解く。	○くり下がりの計算をたしかにさせる。	○2回くり下がり計算のし方が深まったか。
確認	4.確認の問題をする。 5.次時の課題を知る。	○計算のし方をグループや全体でたしかめさせる。	○確実に理解できたか。

7 確認の要点

- くり下がりのある筆算のし方が、わかりましたか。（437－259）
 ○自分の考えが、はっきり言えましたか。

(2年3組)

指導者 沢 村 恵美子

5 本時の目標

- 認知的 ○ 3位数 + 3位数で、一の位、十の位、百の位でくり上がりが3回続く筆算ができる。
- 態度的 A 計算用数図を操作しながら、具体的にくり上がりを確認していこうとする。
B 友だちの前に数図を出してわかりやすく説明しようとする。

6 展 開

学習課題	587 + 465 を筆算で計算する仕方を見つけよう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準備	1.学習課題を確認、目あてをはっきりする。	○くり上がりの筆算の仕方を見つけることが、本時のねらいであることをおさえる。	○課題に意欲を示したか。
中	2.587 + 465 の筆算の仕方を考える。 ○各自が計算をする。 (ひとり勉強)	○前時に学習したことをもとに、くり上がりをどう処理するか考えさせる。	○くり上がりがつかえているか。
	○ひとり勉強の結果を発表する。 ○計算用数図をグループで操作して正答を見つけ出す。 ○計算の仕方を全体で話し合う。	○いくつもの答が出たことから、筆算の仕方に問題があることに気づかせる。 ○みんなの考えをよく聞いて数図を操作させる。	○4人のみんなが考えを出しあえたか。
心	3.326 + 697 を全体でとく。	○計算用数図を操作しながら、特に百の位が0になることをていねいに扱う。 ○くり上がりの計算を確実にさせる。	○3回くり上がる意味がわかったか。 ○3回くり上がる計算の仕方が深まったか。
確認	4.確認の問題をとく。	○計算の仕方をグループや全体で確かめさせる。	○確実に理解できたか。
	5.次時の課題を知る。	○ひきざんへ意欲づける。	

7 確認の要点

- くり上がりのある筆算の仕方がわかりましたか。(778 + 354)
- 自分の考えをグループのみんなに伝えましたか。

社会科学習指導案

(2年4組)

指導者 米 田 真由美

1 単元名 工ばではたらく人びと

2 単元目標

認知的 ◦ 工場では、機械を使って原料を加工し、製品をつくることがわかり、そこで働く人たちの様子から、苦労や願いをとらえることができる。

態度的 A カリントをつくる様子を見て、くわしく調べようとする。

B 友だちの考えを聞きながら、自分の考えを言おうとする。

3 教材の取り扱い

「家の近くにある工ばには、ぬの工ば、プラスチック工ば、きゅうしょくセンター、ディナーサービス…があります」第一次で、地域の工場を発表している時のことである。

一年生でも働く人の学習はしてきたが、二年生では、自分たちの生活をささえている働く人たちの具体的な姿をもとに、人間の働きについて学習しようとする。田や畑で働く人々に続いて、場所を変えた工場で働く人々の姿の学習であるが、子どもたちの中に、「工場」のもつイメージが如何なるものか、先の、給食センター、ディナーサービスが出てきたことである程度つかめた気がする。これらは工場ではない、という話し合いを、これからの学習にどのように生かせるか。「工場とは」と問うことも本単元の大きな課題の一つになり得る。

子どもたちの、このような実態から出発し、また、より身近な興味を抱いて学習できる、校区の工場見学を通して、製品の生産過程、工場で働く人たちの工夫を明らかにし、更に田や畑で働く人たちとの比較によって、本単元の学習を一層確かなものにしたいと考える。

4 学習計画

区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時 間
第 1 次 計 画	1.プリテストをする。 2.「工ばではたらく人びと」についての学習計画を立てる。	◦プリテストをしよう。 ◦工場のしくみや働く人々の様子を調べる計画を立てよう。	2
第 2 次 工場の見学	3.カリント工場を見学する計画を立てる。 4.カリント作りの仕事と機械、働く人の様子、働く時間と休み、病気やけが、売る工夫、輸送方法について見学する。	◦カリント工場を見学する計画を立てよう。 ◦決めためあてで工場を見学しよう。	3
第 3 次 工場見学の ま と め	5.製品のでき方、機械の働き、働いている人の仕事の様子について、まとめる。 ⑦学習課題作り。	◦カリント作りには、どんな仕事があったか、どんな機械があったか、絵にかこう。 ◦絵から、課題作りをしよう。	7

	①機械の仕事について。 ⑦人の仕事について。 ⑤事務室について。 ④工夫していること。	○カリントは、どんな順番で作られるのか、機械の仕事を見つけよう。 ○たくさんのよいカリントを作るための、人の仕事を見つけよう。 ○事務室の仕事を見つけよう。 ○働きやすくするために、どんなふうをしているだろう。	本時 (4/7)
第4次 学習の まとめ	6.カリント工場の仕事の特徴をまとめる。 7.「工場ではたらく人びと」の学習を確かにする。	○カリント工場の仕事と田や畑の仕事をくらべよう。 ○ポストテストをして、学習のまとめをしよう。	2

5 本時の目標

認知的 ○ カリント工場の見学結果をもとに、工場では、人の働きと機械とがうまくつながり合って、たくさんの良い製品を作り出していることがわかる。

態度的 A 工場で働く人の様子に目をつけて考えようとする。

B 友だちの考えをよく聞いて、自分の考えをふくらませようとする。

6 展 開

学習課題	たくさんのよいカリントを作るための、人の仕事を見つけよう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備	1.学習課題を確認する。 2.ひとり勉強をする。	○見学メモと、絵の見直しをさせる。 ○絵を見て、人の仕事をいくつ見つけたか、確認させる。	○たくさん見つけたか。
中	3.どんな仕事を見つけたか、グループで話し合う。	○同じ内容のものはまとめて、グループとしての意見をもたせる。	○話し合いに進んで参加したか。
心	4.仕事の順序がよくわかるように、全体で話し合う。	○全体の中で共通した意見から出し合わせる。	○グループ発表がよく聞けたか。
確 認	5.本時のまとめと次時の予告。 ・確認バズをする。	○どんな仕事を見つけたか、確認させ、「わたしは工場で働く人です」の続きを考えて、ノートに書く。	○自分の考えに付け足しできたか。

7 確認の要点

○たくさんのよいカリントを作るための、どんな仕事が見つけられたか。

○自分の考えが、はっきり言えたか。

体育科学習指導案

(3年1組)

指導者 福島 寿夫

1 単元名 長くつづけて走る

2 単元目標

- 認知的 (1) 自分の能力にあった、ペースのとり方ができる。
(2) 身体のむだな力を抜いた、軽快な走り方ができる。
- 態度的 A 無理のないペースで走ろうとする。
B 友だちの良い点、悪い点を教えてなおしあおうとする。

3 教材の取り扱い

本単元は、他の単元に比べ、単調で、しかも苦しいということなどから、意欲をもたすのが困難である。特に、最近増えている肥満の子どもにとっては、「苦しくて、つらい、面白くない」と敬遠されがちである。その反面、このごろはジョッキングブームと言われ、老若男女をとわず多くの人が長距離走を愛好している。ここでは能力に関係ない、男女混合のグループの協力により、個人に合ったペースやフォームをみつけさせたい。

さらに、長い距離を走ることにより、呼吸循環機能を発達させ、全身持久力を高め、自分の能力にあったペースで走れる能力を養うことをねらいとしている。しかし、競走的な取り扱いはしないで、個人に適した持久的な走力を高められる。無理のないペースのとり方ができるようにしたい。また、短距離を走るときのフォームのちがいに気づかせ、長く走りつづけるためにはどのようなフォームが、一番効果的で楽か考え、身につけさせたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 ためす	1.自分のペースで600Mを走る。 (プリテスト)	○力だめしをしよう。	1
第2次 練習	2.走り方の方法を考える。 3.個人が無理のないペースで走る。 4.グループの中で協力して、自分 にあったペースやフォームをみ つける。	○走る時のフォームとペースを 考えよう。 ○フォームとペースを考え、2 分間無理のない速さで走ろう。 ○走り方を見せ合い、自分に合 ったペースやフォームをみつ けよう。	3 本時 (3/3)
第3次 たしかめる	5.グループでコースを決め、自分 に合ったペースで走る。 6.自分のペースで600Mを走る。	○グループで決めたコースを、 自分のペースで走ろう。 ○自分に合った一定ペースで、 600Mを走ろう。	2

5 本時の目標

- 認知的 ◦ 走るフォームを考え、自分に合ったペースで走ることができる。
- 態度的 A 自然なフォームで、自分に合ったペースをみつけようとする。
- B 友だちのフォームやペースの取り方の、良い点、悪い点を教えてやろうとする。

6 展 開

学習課題 走り方を見せ合い、自分に合ったペースやフォームをみつけよう。			
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中 心 確 認	1.準備運動をする。 ・体操 ・体力づくり	◦足の関節を充分運動させる。 ◦基礎体力をつけるため、補強運動をさせる。	◦正しい動作で体操ができてきているか。
	2.本時の課題を確認する。	◦本時の学習は、走るフォームと自分に合ったペースをみつけることを意識させる。	◦本時の課題がつかめたか。
	3.課題に対するめあてを決め発表する。 （グループバズ 全体バズ	◦走り方の方法や注意することについて話し合わせ、個人やグループにめあてをもたせる。	◦話し合いに進んで参加しているか。
	4.グループごとに走るのを見せ合う。 グループバズ ・トラック2周を走る。 ・自由に2分間走る。	◦グループを2つに分け、走り方を見せ合いさせる。 ◦友だちから言われた点を意識させて走らせる。	◦友だちの走り方をよく見ているか。
	5.学習のまとめをする。	◦課題やめあてが達成できたか発表させる。	◦自分のペースをつかもうとしているか。
	6.整理運動をする。	◦ゆっくり、大きくさせる。	◦めあてが達成できたか。
	7.次時の予告をする。	◦次時の課題の確認をする。	

7 確認の要点

- 自然なフォームで、自分に合ったペースで走れたか。
- 自分に合ったペース、自然なフォームをみつけようとしたか。
- 友だちの走り方の良い点、悪い点を教えてやろうとしたか。

音楽科学習指導案

(3年2組)

指導者 木下千鶴

1 単元名 ふしのちがい 教材(風のワルツ・「メヌエット」ト長調・あわてんぼうの歌)

2 単元目標

認知的 ○ フレーズ感を生かし、旋律のまとまりをとらえて表現することができる。

態度的 A 旋律のまとまりを意識しながら歌おうとする。

B わかりやすく話す工夫をしようとする。

3 教材の取り扱い

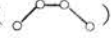
本単元は、ふしのちがいを旋律のまとまりとしてとらえ、表現することがねらいとなっている。子ども達の実態をみると、ふしのちがいを小節単位でとらえることはほぼできているようである。したがって、本単元ではそれをフレーズ単位としてとらえ、さらに表現できるようにさせたい。殊に中心単元の「あわてんぼうの歌」について、子ども達は、くおもしろい・ゆかい・おちょこちょい・ぼくとにているなどの感想を持ち、たいへん親しみを持ったようである。そこで、この教材では、ふしのちがいを見つけることによってフレーズのまとまりに気付かせ、ユーモラスな歌詞に合った歌い方ができるようにさせたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次	1.プリテストをして、今後の学習の見通しを立てる。	○プリテストをして、学習計画を立てよう。	1
第2次 風のワルツ 「メヌエット」ト長調	2.三拍子のリズムにのって楽しく歌う。 3.曲趣の違いやフレーズのまとまりを感じ取る。 4.旋律の反復・再現に気付かせ、曲のまとまりを感じ取る。 5.即興的に旋律を演奏することに慣れる。	○風のワルツのレコードに合わせて、体を動かしながら歌おう。 ○風のワルツと「メヌエット」ト長調を聞きくらべて、ちがいを見つけよう。 ○おもなふしが何回出てくるか、数えながら聞いてみよう。 ○笛を使って、続きのふしを作ろう。	4
第3次 あわてんぼうの歌	6.似ているふしに気付き、表情豊かに歌う。 7.いろいろな楽器の奏法に慣れる。 8.曲の感じをつかんで、楽しく演奏する。	○似ているふしを見つけよう。 ○楽器別に別れて、練習しよう。 ○「あわてんぼうの歌」の合奏をしよう。	3 本時 (1/3)
第4次	9.ポストテストをする。	○力をためそう。	1

5 本時の目標

認知的 ◦ 似ているふしに気付き、前半と後半のふしの感じを生かしながら、あわてんぼうの歌が楽しく歌える。

態度的 A レコードを聞いたり、自分で歌ったり、ふしを絵で表したり（)して、似ているふしに気付こうとする。

B 前の人につなげて話そうとする。

6 展 開

学習課題	似ているふしを見つけよう。(あわてんぼうの歌)		
区分	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備	1.本時の学習課題を確かめる。	◦本時の認知的、態度的な目当てをとらえさせる。	◦認知的、態度的な目当てをとらえているか。
	2.学習課題を解決するための手立てについて話し合う。	◦階名唱、歌詞唱、レコードを聴く、ふしを絵で表すなど、いろいろな手段で課題を解決するような手立てを考えさせる。	◦いろいろな手段で、課題に取り組もうとしているか。
中	3.レコードを聴く。	◦ふしについて気のついたことは、メモを取らせ、話し合いの材料にさせる。	◦気のついたことがメモできているか。
	4.主旋律を階名で歌う。 5.主旋律を歌詞で歌う。	◦歌う側、聴く側の二手に別れさせる。	◦似ているふしをフレーズ単位でとらえているか。
心	6.似ているふしについて話し合う。 グループバズ 全体バズ	◦似ているふしを小節単位でとらえているものについては、OHPを利用し、フレーズ単位でとらえさせる。	◦前の人につなげて話しているか。
	7.A・Bそれぞれの部分に適した歌い方について話し合う。 8.A・Bのふしの感じを生かして楽しく歌う。	◦A…各小節の頭に軽いアクセントをつけて歌わせる。 ◦B…bは、2小節ごとに強弱の対比をつけて、bは2小節目以後を>して曲を閉じる感じを表現させる。	◦A・Bのふしの感じを生かして、明るく楽しい感じで歌っているか。
確認	9.学習のまとめと次時の予告をする。	◦学習の要点をまとめさせる。	◦学習の要点がまとめられたか。

7 確認の要点

- 似ているふしはどこですか。
- いろいろなやり方で似ているふしを見つけましたか。
- 前の人につなげて話しましたか。

算数科学習指導案

(3年3組, 4組)

1 単元名 円と球

2 単元目標

認知的 (1) 円についての性質を捉え、円の中心・半径・直径の意味と、それらの関係
を理解する。

(2) コンパスのいろいろな使い方を知る。

(3) 円に関連して、球についての特徴や用語などを理解する。

態度的 A 円の基本的な性質を理解した上で、いろいろな円形状のものを、興味をも
って処理しようとする。

B 自分の考えや操作を、わかりやすく説明しようとする。

3 教材の取り扱い

児童は前学年までに、正方形や長方形、直角三角形など、直線で構成される図形を学習してきている。曲線で構成される図形の学習をほとんどしてきていない児童は、円すなわち「まる」という捉え方をしているものが大半である。プリテストを見ても、そのことは明らかで、かかれた「まる」が円であるという、直観的な予想はできても、円の基本的な性質や用語にはもちろん無知である。例えば、何本かの直線から半径を選べた児童は24%、直径の用語が使えたのは16%というのが実態である。

この単元では、曲線で構成される基本図形としての円を学習する。円をかく活動を通して、円に関する用語や性質を捉えさせ、また円の正確なかき方も指導したい。

児童は、毎日の生活体験から、コンパスというものが、円をかく道具という程度しかわかっていない。したがって、単に円をかくためだけでないコンパスの有用性も、しっかりと認識させていきたい。

球については、まずその概念をつかむことができなくて、例えば球と円との相違を見つけれられない児童が大半である。したがって、ここでは、球のみを取りあげるのではなくて、円との関連の上からその特徴を知らせ、球についての一般的な性質や用語を捉えさせ、それらが用いられるようにする。

4 学習計画

区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時 間
第 1 次 プリテスト と学習計画	1.プリテストをする。 2.課題意識をもって学習を見直し 学習計画を作る。	○プリテストをしよう。 ○プリテストから、わからない 点、知りたい点を出し合い、 学習課題を作ろう。	2

<p>第 2 次</p> <p>円</p>	<p>3. 1点から等距離にはなれている点をさがし、それをつなぐ操作を通して、円の概念を捉える。</p> <p>4. 円の中心・半径・直径の意味とそれらの関係がわかる。</p> <p>5. コンパスの利点と構造を知り、コンパスを使った円のかき方に慣れる。</p> <p>6. コンパスのいろいろな使い方を知り、その使い方を試してみる。</p> <p>7. 円の中心の見つけ方を知り、それを使って、かかれた「まるい形」が、円かどうかを確かめる。</p>	<p>○教科書の P 26 の図で、アの点から、同じ長さだけはなれている点をさがそう。</p> <p>○アの点から同じ長さだけはなれているいくつかの点を、なめらかな点でつなぐ方法を考えよう。</p> <p>○コンパスを使って、いくつかの円をかき、もようを作ろう。</p> <p>○コンパスは、円をかく他に、どんな使い方があるかしらべよう。</p> <p>○円の中心を見つける方法を、いろいろ考えよう。</p>	<p>5</p> <p>3 の 3 本時 (5/5)</p>
<p>第 3 次</p> <p>球</p>	<p>8. 円に関連して球を知り、その一般的な性質と用語がわかる。</p>	<p>○ボールの形と円とくらべて、にているところと、ちがっているところをさがそう。</p>	<p>1</p>
<p>第 4 次</p> <p>まとめの練習</p>	<p>9. 円の性質を利用し、また正方形（立方体）と円（球）の関係を明らかにして、問題を解決する。</p> <p>10. コンパスの性質を生かし、複雑なもようを作図する。</p>	<p>○教科書の P 32～P 33 の、まとめの練習の問題をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円を使って考える練習問題をしよう。 ・球を使って考える練習問題をしよう。 ・コンパスを使って、いろいろなもようをつくろう。 	<p>3</p> <p>3 の 4 本時 (1/3)</p>
<p>第 5 次</p> <p>まとめ</p>	<p>11. ポストテストをして、学習のまとめをする。</p>	<p>○ポストテストをして、学習のまとめをしよう。</p>	<p>1</p>

(3 年 3 組)

指導者 伏 木 清 史


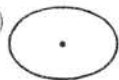
5 本時の目標

- 認知的 ○ 円の中心を見つける方法がわかり、それを使って、「まるい形」が円かどうか確かめることができる。
- 態度的 A 円の中心を見つける方法を、いろいろ工夫しようとする。
B 自分の考えた見つけ方を、はっきりとていねいに説明しようとする。

6 展 開

学習課題		円の中心を見つける方法を、いろいろ考えよう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中 心 確 認	1.学習課題を確認する。	○本時の認知的、態度的なめあてを捉えさせ、課題追求の手だてを話し合わせる。	○めあてが持て、手だてがわかっているか。
	2.方法をいろいろ考え、実際に試行する。 (ひとり勉強)	○ひとつの方法にこだわらず、いろいろな方法を工夫させる。	○いろいろな方法を見つけようとしているか。
	3.施した操作を示しながら、中心の見つけ方を発表する。 (グループ → 全体)	○グループで方法を集めさせ、その是非を話し合わせるが、ふさわしくないとと思われるものは、理由と共に発表させる。 ○全体で方法を話し合わせ、直径、半径に目をつけた、円を4つに折る方法が一番よいことを知らせる。 ○円の定義から、見つけた中心が正しいことを確かめさせる。	○操作の手順を、正確に、ていねいに説明しているか。 ○直径のこと等、円の定義に目をつけて話し合っているか。
	4.「まるい形」が、円かどうかを確かめる。	○中心のわかっている「まる」(実は円)を提示し、これが円かどうか、判別する方法を話し合わせ、その判別法を捉えさせる。	○学習活動3での理解をいかして判別しようとしているか。
	5.学習のまとめと、次時の予告。	○学習の要点を捉えさせる。	

7 確認の要点

- 自分の、中心の見つけ方が、はっきりとていねいに話せましたか。
- 円の中心の見つけ方がわかりましたか。
- 次の「まる」のうち、円はどれでしょう。(ア)  (イ) 
- また、そのわけも言いましょう。

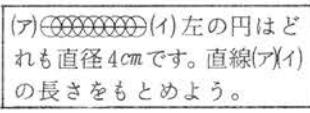
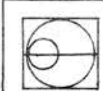
(3年4組)

指導者 福島 千代子


5 本時の目標

- 認知的 ○ 円の半径や直径に目をつけて問題をとくことができる。
 態度的 A 円の半径や直径に目をつけて解こうとする。
 B ノートをみんなの前に出して指でおさえながら話そうとする。

6 展 開

学習課題 円をつかって考えるれんしゅう問題をしよう。			
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準備	1.学習課題を確認する。	○円をつかって考える問題で、直径や半径がかかっている事に気づかせる。	○本時の学習することを知ったか。
中	2.○(ア)から(イ)までの長さを求める。(ひとり学習)	○いろいろな考え方で解かせる。	○自分の考えが持てたか。
	 <p>(ア) (イ) 左の円はどれも直径4cmです。直線(ア)(イ)の長さをもとめよう。</p>	○いろいろな解き方を理由づけて出させる。 半径の10倍で20cm 直径の5倍で20cm 直径の9倍で36cm	○ノートに指をさしてわかりやすく説明できたか。
心	○各自の解き方を出し合う。(グループバズ)	○より正確に簡単にできる方法を見つけ出させる。	○半径や直径に目をつけて解いているか。
確	○全体で考え合う。(全体バズ)		○話し合いに進んで参加しているか。
	3.正方形の一辺の長さを求める。	○(直径)の5倍で求められることをわからせる。	○直径×5で求められたか。
認	 <p>小さい円の半径は、2cmです。正方形の一辺の長さを求めよう。</p>	○問題の意味をはっきりつかませ小さい円の直径から大きい円の直径を求めたらよいことに目をつけさせる。	○問題の意味がはっきりわかったか。
	○問題の解き方を話し合う。(全体バズ)	○正方形はたてと横の辺の長さが同じことに目をむけさせる。	○小さい円の直径の2倍が大きい円の直径であることがわかったか。
	○自分で解きグループで確かめ合う。(グループバズ)		○自己評価はできたか。
	4.学習の反省と次の学習課題を確かにする。	○学習のまとめと反省をさせる。	○次時の課題がわかったか。

7 確認の要点

-  直径2cmの円が左のようにならんで入っています。この箱のたてと横の長さはどれだけでしょう。
 ○ グループバズの時、人にわかるように、ノートを指でおさえながら話せたか。

算数科学習指導案

(4年1組)

指導者 沼田 明 美

1 単元名 四角形

2 単元目標

- 認知的 (1) 「台形」「平行四辺形」「ひし形」の性質や特徴を理解し、それらを弁別したり、構成したり、作図したりすることができる。
- (2) 2直線の垂直・平行の關係に着目して図形が考察できる。
- (3) 対角線の意味を知り、対角線に着目して図形を考察したり、作図したりすることができる。
- 態度的 A 三角定規・コンパス等の操作を通して、各々の四角形の特徴を見つけたり、正確に作図したりしようとする。
- B 自分の考えをはっきりとさいごまで話そうとし、友だちの考えを自分の考えと比べながら聞こうとする。

3 教材の取り扱い

子どもたちは、これまでに「長方形」「正方形」という四角形を学習し、辺や頂点の数・辺の長さ・角の大きさなどに着目して図形を考察してきた。ここではさらに、「台形」「平行四辺形」「ひし形」を加え、四角形についての理解を深めさせる。

その際、考察の観点として、2直線の平行・垂直といった辺の位置關係についても着目することを知らせ、さらには、四角形の構成要素としての対角線についても取り上げ、図形の見方・考え方についての知識・理解を深めていきたい。ここでは、また、三角定規・コンパス等を用いての操作活動を多く取り入れ、直観的な把握(平行・垂直・同位角・錯角等)を数理的に捉えさせたい。

4 学習計画

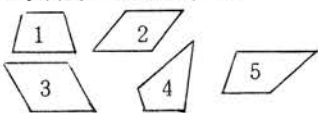
区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時 間
第 1 次	1.学習内容の概要を知り、課題意識を持つ。	○プリテストから知りたい事をさがし、学習課題を作ろう。	1
第 2 次 台 形 平行四辺形	2.台形・平行四辺形の定義を見つけ、類似点・相違点を調べる。 3.台形・平行四辺形の定義を生かしてその書き方を考え、作図する。	○四角形をなかま分けし、台形・平行四辺形のきまりを調べよう。 ○台形・平行四辺形の書き方を考えよう。	2 本 時 (1/2)
第 3 次 ひ し 形	4.ひし形の定義を知り、その書き方を考え、作図する。	○ひし形は、どんな四角形か調べよう。	
第 4 次 対 角 線	5.○2つの三角形→四角形を(構成) ○四角形→2つの三角形を(分解) 上記の作業を通して、対角線の	○対角線とは、どんな線か調べよう。	3

	意味を理解する。 6.ひし形の対角線の性質を調べる。 7.対角線の長さをもとに、ひし形の書き方を考える。	○ひし形の対角線を調べよう。 ○ひし形の書き方を考えよう。	
第5次	8.まとめの練習をする。	○P38のまとめの練習をしよう。	1
第6次	9.ポストテスト	○ポストテストをしよう。	1

5 本時の目標

- 認知的 ○「台形」「平行四辺形」の定義が理解できる。
- 態度的 A 観点を持って四角形を考察し、操作を通して立証しようとする。
B 友だちの目のつけどころと自分のそれを比べながら聞き、わからないところは、おたずねをしようとする。

6 展 開

学習課題	四角形をなかま分けし、台形・平行四辺形のきまりを調べよう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準備	1.学習課題を確認する。 	○なかまはずれを1つ捜し、1つとその他のなかまと分けさせる。分けた理由(観点)をはっきりさせることを約束しておく。	○意欲的になかま分けをしようとしているか。
中	2.なかまはずれの四角形をさがし、そのわけを分度器や三角定規を使って確かめる。(ひとり学習)	○直観的に見つけたものを操作活動を通して確かめさせる。 ○友だちに分かりやすい話し方・示し方(操作)を工夫させる。	○数理的に捉えようとしているか。
心	3.なかま分けしたわけを話し合い、できたなかまのきまりを見つける。(グループ→全体バズ)	○辺の位置関係(平行)に着目することをおさえる。 ○台形・平行四辺形のちがいにまだ気付くものがあれば、とりあげ4へのつなぎとしたい。	○位置関係に着目しているか。
確認	4.のこった四角形をさらになかま分けし、台形・平行四辺形のきまりをみつける。 5.練習問題をして、四角形をなかま分けする。	○平行の数で台形と平行四辺形に分け、定義づけする。 ○台形・平行四辺形、この2つでない四角形に分けさせる。	○友だちによく分かるよう工夫しているか。 ○「台形」「平行四辺形」の定義がわかったか。

7 確認の要点

- 四角形をなかま分けし、できたなかまに名まえがつけられましたか。
- 友だちの考えのわからないところにおたずねができましたか。

理科学習指導案

(4年2組)

指導者 吉岡 順子

1 単元名 物のとけ方

2 単元目標

認知的 (1) 砂糖・せっけん・ほう酸などが水に溶けると、水の中全体に広がっていくことがわかる。

(2) ほう酸は、水の温度を上げると溶ける量が増し、その水溶液の温度を下げると溶けていたほう酸が水と分かれて出てくるのがわかる。

態度的 A 物が水に溶ける様子を、条件を整理しながら的確に確かめていこうとする。

B 話し手と聞き手がお互いの立場になって、話し合いにのぞもうとする。

3 教材の取り扱い

この単元を通して、物が水に溶けて見えなくなっても、水中に存在していることを、ほう酸が折出する現象から推論させ、物質の保存概念を育てていきたい。また、物質による溶け方の違いや、水温と溶ける量の関係から物質の性質の違いをとらえさせたい。

児童の身近にある生活経験の中から、砂糖を使って水全体に広がって溶けていく現象を見せたり、ほう酸と砂糖を使って水温と溶ける量の違いを比較させたり、ほう酸溶液の温度が下がると、ほう酸が折出する現象を見せたりする。

粒がだんだん見えなくなる現象を、粒がもっと小さくなって、下の方にたまっていると考えている子どもが多い。そこで砂糖が全体に溶けていることを味で調べたり、ほう酸水の上部をとって冷やし、ほう酸を折出させることによりほう酸が全体に溶けていることを推論させるようにしたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 学習計画	1.学習課題をたてる。	○プリテスト ○学習課題をたてよう。	1
第2次 溶ける様子	2.物が水に溶けると水全体に広がる。 3.物が溶ける様子を工夫して調べる。	○いろいろな物のとけ方を調べよう。	1
第3次 溶け方	4.物が水に溶けると粒の形は見えなくなり、水は透明になる。 5.物によって溶ける量がちがう。	○砂糖とほう酸の溶け方のちがいをを見つけよう。	1
第4次 湯と水への物の溶け方	6.水に溶け残ったほう酸を溶かす。 7.水温を上げると溶ける量が増える。 8.水の温度によって、溶ける量が決まっている。	○溶け残りのほう酸を溶かすには、どうするとよいだろう。 ○水の温度によって、ほう酸がどれくらい溶けるか調べよう。	2

第5次 ほう酸水を ひやす	9.水の温度を上げて溶かしたほう酸を冷やしてみる。 10.ほう酸水の温度を下げると、粒が出てくる。 11.ほう酸水の中のほう酸を取り出す。	○ほう酸水の温度が下がると、今まで溶けていたほう酸はどうなるか調べよう。 ○ろ紙でこした後の水には、ほう酸が溶けているだろうか。	2 本時 (1/2)
第6次 まとめ	12.単元のまとめ ポストテスト	○学習のまとめをして、ポストテストをしよう。	1

5 本時の目標

- 認知的 ○ ほう酸水の温度を下げると、溶けていたほう酸が粒になって出てくることがわかる。
- 態度的 A 温度を下げるとほう酸が析出する現象より、水温と物の溶ける量との関係の理解を深めようとする。
- B 話すとき、「発表します。～と思います。どうですか。」のことばを使って話そうとする。

6 展開

学習課題	ほう酸水の温度が下がると、今まで溶けていたほう酸はどうなるか調べよう。		
区分	学習活動	指導上の留意点	評価
準備	1.本時の課題を確認する。	○課題をしっかりとつかんでみんなで協力して解決しようとすることを意識させる。	○課題解決へ意欲的に取り組んでいるか。
中	2.課題の予想と調べる方法を考える。 (ひとり勉強)	○前時までの結果と経験をもとに理由も考えさせる。	○水温と溶ける量との関係と課題を関連づけて考えているか。
心	3.予想と実験方法について話し合う。 ○グループで話し合う。 ○全体で話し合う。	○水温と溶ける量との関係のグラフに目をむけさせたい。 ○発表する態度と聞く態度をしっかり身につけさせたい。	○聞き手の立場になって、わかりやすく発表できたか。
確認	4.グループで実験して確かめる。 5.実験結果を発表し、全体で確認する。 ○確認のテストをする。 6.次時の予告	○ほう酸の粒が析出する様子を注意深く観察させる。 ○ほう酸の溶解・析出の現象を理解させたい。	○析出する様子が観察できたか。 ○水温と溶ける量の関係が理解できたか。

7 確認の要点

- ほう酸水の温度が下がると、溶けていたほう酸はどうなるか。
- ほう酸水の温度が下がると、溶けていたほう酸がでてくるわけが説明できるか。
- 話すとき「発表します。～と思います。どうですか。」のことばを使って話せたか。

国語科学習指導案

(4年3組)

指導者 高村 博

1 単元名 小さな青い馬

2 単元目標

- 認知的 ○ 場面や情景を想像し、人物の気持ちの移り変わりを考えて音読するとともに、段落相互の関係を考えて焦点化された感想文を書くことができる。
- 態度的 A 人物の行動や会話などをその身になって読み、その場その場の人物の心の移り変わりがよく分かるように音読しようとする。
- B 話し合いをもちあげたり、つないだりする言葉を使って話そうとする。

3 教材の取り扱い

感想の深さは、読み取りの深さに相関する。総括的概念的な感想に陥りやすい子どもに、人物の気持ちと読み手である子どもの気持ちを重ね合わせて読ませ、感想の質を高めるとともに、青い馬との出会いの場面の美しさ、青い馬と母親のイメージの重なりなど、焦点を明確にさせた感想を書かせるようにしたい。併せて、音読の活動を豊富に取り入れ、主人公(のぼる)の心情の変化が聞き手によく伝わるような音読の指導にも心がけたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 学習計画	1.教材を通読し、学習計画を立てる。 ○全文を読んで、感想を話し合う。 ○学習計画を立てる。	○単元「小さい青い馬」のプリテストをしよう。 ○全文を読んで感想を話し合い、おもしろいところ、疑問に思ったところに印を付けておこう。 ○場面や登場人物、難語句などを調べ、これからの学習課題づくりをしよう。	3
第2次 主人公の 心の移り 変わり	2.のぼるの心の移り変わりを読み取る。 ○父との生活の様子 ○青い馬との出会い ○その後ののぼるの心の移り変わり ○父に馬のことを知られたときの様子 ○馬が来なくなったときの気持ち ○母と青い馬の関係	○のぼるの父との生活の様子を読み取ろう。 ○夢を見るとき、のぼるの気持ちはどんなだろう。 ○青い馬との出会いの場面での、のぼるの気持ち、青い馬に対する気持ちを想像しよう。 ○青い馬との出会いから一週間の、のぼるの気持ちの移り変わりをさぐろう。 ○馬のことが父に分かったときの、のぼるの様子や気持ちはどうだっただろう。 ○小さな青い馬が来なくなったときの、のぼるの気持ちを考えながら、声を出して読んでみよう。 ○小さな青い馬は、いったい、何だったのだろう。	7 本時 (2/7)
第3次 主題	3.主題について話し合う。	○主題と題名のかかわりを考えながら、のぼるの身になって、青い馬に手紙を書こう。	1
	4.感想を書く。	○書きたいこと、中心が何か、はっきりさせ、また、主題が何かを考えて、感想文を書こう。	

第4次 感想文と 学習のま とめ	<ul style="list-style-type: none"> ○感動した場面を中心 に感想文を書く。 ○感想文を読み合い 考えを深める。 ○ポストテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○書いた感想文をグル ープで読み合い、ひとり ひとりの読みの違いを 比べながら、それぞれの 作品について話し合おう。 ○ポストテストをして、 学習のまとめをしよう。 	3
---------------------------	---	---	---

5 本時の目標

- 認知的 ○ 孤独なのぼるの様子を読み取り、その時の気持ちが想像できる。
- 態度的 A のぼるの身になって、いろんな見方で、その気持ちをさぐろうとする。
- B 話し合いをつなぐ言葉を入れ、話しのバトンタッチをうまくしようとする。

6 展 開

学習課題	夢を見るときの、のぼるの気持ちはどんなだろう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備	1.学習課題を確認する。 ○本時学習部分をのぼるの身になって読む。	○「のぼるの身になって読む」の具体的な行動として、「のぼる」のところを「ぼく」と置き換え、一人称の立場で読ませる。	○置き換えて読むことに興味を示すか。
中	2.どんなとき、何の出てくる夢を見るのかははっきりさせてから、その夢を見るときの、のぼるの気持ちを話し合う。 ○ひとり学習の見直し ○グループ→全体 ○つなぐ言葉を使って ○文に即して、もれなく	○父の夜勤の日、「のぼるは一人でその小屋にねる」から、のぼるの様子を想像させ、どんな時「何が出て来る夢を見るのか」をおさえ、その時時ののぼるの気持ちを想像することを確認させる。 ○グループや全体の話し合いをスムーズにするため、発言者がその時々判断でつないだり、進めたりする言葉を使って司会をするよう指導する。	○父と子の会話の部分など気持ちをこめて読んでいるか。 ○父のいる時、いない時、「何が出て来る夢」と分け、のぼるの気持ちが書けているか。
心	3.母の夢を見たときの、のぼるのうれしい気持ちをノートに書く。	○「のぼるはなぜかうれしかった」といううれしさについて、のぼるの心を書かせ、学習のまとめとする。 ○互いのノートに書いたのぼるの心と自分のバトンタッチのようすを、グループ毎に確かめさせる。	○つなぐ言葉を使って、グループや全体の話し合いで話しのバトンタッチがうまくいったか。
確認	4.学習のまとめと次時の学習を確認する。		○うれしさについてののぼるの心がまとめられたか。

7 確認の要点

- のぼるになりきって、母親の夢をみたときの「うれしさについて」その心が書けたか。
- 話し合いをつなぐ言葉を入れて、話しのバトンタッチがうまくできたかどうか。

社会科学習指導案

(4年4組)

指導者 徳田 慶子

1 単元名 地図の見方

2 単元目標

認知的 ◦ 等高線、縮尺、方位、記号など読図の基礎的能力を高め、その活用ができる。

態度的 A 読図の基礎的能力を高め、活用することにより、地図と実際の土地とを正しくつなげようとする。

B 要点をとらえて聞こうとし、自分の考えにわけをつけて話そうとする。

3 教材の取り扱い

3年において、自分たちの町や県を学習し、地図についてある程度の読図力を高めながら、これを活用してきている。しかし地図の特色を十分理解し読図しているところまではいかないし、また地図から実際の土地のイメージ化をしていくことは、まだまだ不十分である。

そこでより多くの地図記号や、等高線による土地の起伏や、縮尺による測定などを理解することにより、読図力を高め、正しい土地把握ができるようにしていきたい。さらにそれらが以後の学習において生かされ、地域や国土の正しい理解につながるようにしていきたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 プリテストと課題作り	1.本単元の学習内容の概要を知り、課題意識をもつ。 2.空中写真と地図と比べ、学習課題を作る。	◦ プリテストをしよう。 ◦ 空中写真と地図のちがいを見つけよう。	2
第2次 地図記号	3.いろいろな地図記号を見つけ、その意味を知る。 4.地図記号を使って、行き順を説明する。	◦ いろいろな地図記号を知ろう。	2
第3次 等高線	5.等高線から、山の高さ、傾き、入りくむ様子を考える。 6.模型地図を作り、滋賀県の地形の特色をとらえる。	◦ 等高線からわかることを見つけよう。	2
第4次 縮尺	7.縮尺の意味が分かり、距離の測り方を知り、距離を測る。 8.縮尺のちがいによる土地の範囲のちがいが分かる。	◦ 縮尺を使って距離を測ろう。	2
第5次 地図を読む	9.距離、山の傾き、景色、交通、建て物等の面から、遠足によいコースを見つけ、行き順を地図記号を使って説明する。	◦ 遠足によいコースをみんなにわかりやすく正しく知らそう。	1 本時

第6次 ポストテ スト	10.ポストテストをして、学習のまとめをす る。	◦ポストテストをしよう。	1
-------------------	-----------------------------	--------------	---

5 本時の目標

認知的 ◦ 記号、方位、等高線、縮尺などを使って、遠足によいコースを説明することができる。

態度的 A 遠足によいコースが、地図の約束を利用して言おうとする。

B 自分の考えにわけをつけて話そうとする。

6 展開

学習課題	遠足によいコースを、みんなにわかりやすく正しく知らそう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中 心 確 認	1.学習課題を確認し、自分の考えたコースをも う一度たどる。 2.自分のコースの道順や 選んだわけをグループ で出し合う。 3.いくつかのコースを全 体に出し合い、各自が 正しくコースがたどれ たか、言い方や聞き方 の確かめをする。 4.自分のコースの言い方 がわかりやすく正しい か見直しをする。 5.要点を確認する。	◦自分の考えたコースをもう一度見 直させる。 ◦友だちの道順の説明のし方、わけ に付け加えができ、よりよい説明 のし方やわけにさせる。 ◦友だちの道順が正しくたどれたか どうか言い方や聞き方から考え直 し、地図記号、等高線、縮尺等を 使って説明すると、みんなにわか りやすく正しくなることに気付か せる。 ◦自分のコースの道順の言い方やわ けに、地図記号、等高線、縮尺の 面から足らないところの付けたし をさせる。 ◦以後の学習において読図の活用を はかりたい。	◦課題に取り組も うとしているか。 ◦友だちにつけた しができるか。 ◦地図のいろんな 約束を使うと道 順やわけがわか りやすく正しく なることに気付 いたか。 ◦縮尺や等高線が 考えられたか。 ◦総合的に地図が 見られるように なったか。

7 確認の要点

- 自分のコースのよいわけが言えましたか。
- 自分のコースの道順が、方位や地図記号に気を付けて書けましたか。
- 自分のコースの道順やわけが、縮尺や等高線に気を付けて書けましたか。

音楽科学習指導案

(5年1・3・4組)

1 単元名 合唱の響き (教材 星の世界・まっかな秋(共に合唱曲))

2 単元目標

認知的 ◦ 曲趣を生かした表情豊かな歌い方や、和声の響きの美しさを感じながらの合唱・奏ができる。

態度的 A ふしのまとまりを意識し、歌詞の内容を生かした豊かな表現を工夫しようとし、和声の響きの美しさを感じとりながら歌おうとする。

B 感じとったこと・気付いたことを、自分の言葉で伝えようとする。

3 教材の取り扱い

賛美歌である「星の世界」は、日本では古くから歌われており、「まっかな秋」はNHK「みんなの歌」で発表された比較的新しい曲であり、共に歌い親しまれている。2曲とも、歌詞から想像される情景と曲越とがうまく合致している曲と言える。そこで、これらの曲を学習する中で表情豊かな歌い方の工夫や、ムードに浸りながら歌うことの楽しさ、合唱・奏の美しい響きが曲をより豊かにすることなどの経験をさせていきたい。

音楽活動の中で好きなことは、聴くこと(25%)・聴くことと歌うこと(15%)・聴くことと楽器演奏(25%)・歌うこと(8%)という実態を、この教材を扱い終わった時、歌うことの楽しさ、歌声の美しさに気付き「歌うことが好き」と答える子供達がふえるよう、扱いに工夫をこらし、意欲と目標と充実感のある時間としていきたい。

4 学習計画

区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時間	
第1次 調 査	1.歌唱を主とした実態を知る。	◦ 歌うことへの自分の態度や気持ちを見つめよう。	0.5	
第2次(星の世界)	主・副旋律を歌う。 和音進行を調べる。 暗唱する。 響きの美しさの追求。	2.響きのある声の出し方を理解し、表情豊かに歌いこむ。 3.和音進行を調べ、その響きを感じながら、美しく合唱する。 4.フレーズのまとまりや、曲の山が感じられる歌い方をする。 5.演奏の形を工夫して合唱・奏をし、響きの美しさを感じ得する。	◦ 星の輝きに合うような歌声や歌い方を見つけよう。 ◦ 響きのよい和音を感じとり、美しく合唱しよう。 ◦ ふしのまとまりに気をつけ、曲の山がわかる歌い方をしよう。 ◦ 旋律①②③の組み合わせを工夫して、美しい音の重なりを見つけよう。	4 5の1 (2/4)
第3次(まっかな秋)	言葉の感	6.歌詞の情景を充分感じとって歌	◦ 「まっかな秋」の様子がよく	1

じを生かす。 響きのあ る歌声。 合唱の美 しさ追求。 曲越に合 った合唱。	いこむ。 7.主旋律を確かにして、合唱の練 習をする。 8.曲の山の歌い方を工夫して、グ ループで合唱練習をする。 9.工夫した曲想で発表し合い、感 想を話し合う。	わかる歌い方を見つけ出そう。 。「美しい二部の声の重なり」 を作り出そう。 。グループで、曲に合う歌い方 をたくさん見つけよう。 。ほかのグループのよいところ を、たくさん見つけよう。	5の4 1 1 5の3 1.5
--	--	--	-----------------------------

音楽調査 (プリテスト)

設 問	解 答 率 (%)
1. これから聴く曲は、どんな感じ(場面)がしましたか。	歌詞から 62.3 歌詞から発展 20.4 曲の感じから 17.5
2. これから聴く2つの曲は、どちらが好きですか。理由をつけて答えなさい。(※斉唱曲と合唱曲)	斉唱 20.7 合唱 76.4
3. あなたは、次の音楽活動の中で、どの活動が一番好きですか。 ① 聴くこと ② 歌うこと ③ 楽器などの演奏 ①と② ①と③ ②と③	① 23 ② 8 ③ 9 ①と② 15 ①と③ 24 ②と③ 14
4. あなたは「歌うこと」の中で、次のどの歌い方が好きですか。 [A] ① ひとりで歌う ② 2人～6人ぐらいで歌う ③ 10人以上で歌う それは、なぜですか。 [B] ① せい唱 ② 合唱 それは、なぜですか。	① 5.7 ② 42.9 ③ 51.4 ① 27.1 ② 72.9
5. 次の曲の階名を書きなさい。(調号に注意して)	0 (点) 66.4 1～60 10.7 61～80 2.9 81～99 3.6 100 16.4



星の世界

♩ = 76-84 川島春虹 作詞
コンパース 作曲☆

① 1 か がやくよざらの ほしのひかりよ -
2 き らめくひかりは たまかこねか -

ま ばたくあまたの ど おいせかいよ
う ちゅうのひろさを し みしおもう

ふ けゆくあきの よ すみわたるそら -
や さしいひかりに まばたくせいざ -

の そめはししき な ほしのせかいよ
の そめはししき な ほしのせかいよ

①-③それぞれの音の高さや強さに気をつけて、美しいのびきを作りましょう。

まっかな秋

♩ = 112-120 磯摩 忠 作詞
小林秀雄 作曲

1 まっ かな かな まっ かな かな つた-のはっぱが
2 まっ かな かな まっ かな かな から-すうり-って

まっ かな かな もみじのはっぱも まっ かな かな
まっ かな かな とんぼのせなかも まっ かな かな

て -らされ て
ゆ -びさし て
し -ずむゆ う ひに てらされ て
ゆ -うやけ ぐ もを ゆびさし て

まっ かな ほつべたの き -みどほく
まっ かな ほつべたの き -みどほく

まっ かな あきに かこまれて いる
まっ かな あきに よびかけて いる



5 本時の目標

- 認知的 ◦ 和音の進行を調べ、その響きを感じながら美しく合唱できる。
- 態度的 A 自分の耳で確かめ、和音の響きを身につけようとする。
相手のパートもよく聴いて、合唱を楽しもうとする。
- B 疑問点をはっきりさせ、自分の意見を持つようとする。

6 展開

学習課題		響きのよい和音を感じとり、美しく合唱しよう。	
区分	学習活動	指導上の留意点	評価
準備 中 心 確 認	1.学習課題を確認する。	◦和音の進行を調べ美しく合唱することを確認させる。	◦本時の課題がはっきりわかったか。
	2.①②③のパートを階名唱する。	◦各パートの音を合わせるとどんな和音になるか意識しながら歌わせる。	◦へ長調の階名唱がしっかりできたか。
	3.楽符から、1段目を1小節ごとに音の構成より、何の和音か調べる。 個人思考→グループバズ→全体バズ	◦へ長調の主和音(I, IV, V, V7)を確認させる。 ◦自分の考えや疑問点をノートに書かせる。 ◦疑問点をつきとめようとする。	◦自分の考えをまとめられたか。 ◦自分の考えをはっきり話したり、友達の考えをしっかりと聞いたりしているか。
	4.2・3・4段は、響きのよい和音を耳で聴きとる。	◦ピアノでふしと和音をいっしょに弾いてどの和音と合うか聴きとらせる。 ◦疑問が出れば、楽符から3の方法で確かめさせる。	◦自分の耳でしっかり聴きとろうとしているか。
	5.調べた和音の伴奏に合わせて歌う。 パート別→合唱	◦和音の流れを意識させる。	◦相手のパートの声も聴きながら、歌っているか。
	6.学習の要点と次時の課題を確認する。	◦全曲通して和音の流れを確かめさせる。 ◦合唱の工夫に意欲を持たせる。	◦反省やまとめがしっかりできたか。

7 確認の要点

- 「星の世界」の和音の組み立てがわかったか。
- 響きのよい和音を自分の耳で聴き分けられたか。
- 自分のパートをしっかり歌い、美しく合唱できたか。
- 自分の考えをしっかり持ち、わからない時は、何がわからないのかははっきりできたか。

(5年3組)

指導者 加藤雅子

5 本時の目標

- 認知的 ◦ ひびきの美しさを感じながら、合唱のもりあがりを考えさせる。
- 態度的 A 友だちといっしょに、美しい合唱をつくろうとする。
- B 静かに聞いて、自分の意見をつくろうとする。

6 展開

学習課題		グループで、曲に合う歌い方をたくさん見つけよう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中 心 確 認	1.課題を確認する。 2.課題について話し合う。 ・正しく歌う ・範唱レコードを聞く グループ→全体 3.グループで曲に合った 歌い方の練習をする。 ・3グループになる 4.代表グループの発表を 聞いて話し合う。 5.学習の要点を確認する。 6.次時の課題を確認する。	◦正しいリズムや音程で歌えるか注意させる。 ◦範唱レコードを聞かせ、手がかりをつかませる。 ・和音の美しさ ・曲想、曲の山 ◦話し合った事から、合唱を高めさせる。 ◦聞き合ったり、歌い合っ て感じの表現を高めさせる。 ◦グループのよいところを見 つけられるようにさせる。	◦正しい歌い方で歌えているか。 ◦課題解決に意欲的に取り りくめているか。 ◦歌い合っていくうちに 曲に合った合唱に近づく 努力がされているか。 ◦静かに聞いて、自分の 意見がつくれたか。 ◦意欲的に楽しく取りく め、友だちといっしょ にがんばれたか。



7 確認の要点

- 自分たちで見つけた曲の歌い方で歌えたか。
- 静かに聞いて、グループのよい所を見つけられたか。
- グループの人と仲よく学習できたか。

5 本時の目標

- 認知的 ◦ 歌詞の内容を理解し、それに合った表情豊かな歌い方が工夫できる。
- 態度的 A 情景を想像して、言葉を生かして楽しく歌おうとする。
- B 感じたことを大切に話そうとする。

6 展 開

学習課題		「まっかな秋」の様子がよくわかる歌い方を見つけ出そう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中	1.本時の課題を確認する。	◦歌詞の内容をよく読みとることを、はっきり意識させる。	
	2.「まっかな秋」の見つけ方を考える。 ・リズム、音符、歌詞、言葉のアクセント、生活経験など。	◦豊かな想像への援助として、資料を提示する。 ・風物のパネル ・リズム 楽 譜 } カード	◦手がかりをたくさん見つけているか。
	3.自分の考えた見つけ方をもとに話し合う。 (グループ→全体)	まっかだな  まっかな 	◦自分の言葉で話しているか。
心	4.自分の感じとったことと比べながら範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 (全体バズ)	◦より豊かな想像をもとに、感じをこめて歌おうという意欲をもたせる。	◦「歌おう」という気持ちが高まってきたか。
	5.まっかな秋の情景をいっばいに想い浮かべながら主旋律を歌う。	◦表情豊かに、休符・タイに気をつけながら歌わせる。	◦情景にひたって歌っているか。
確	6.表情豊かな歌い方になっているか、録音を聞く。	◦自己評価を兼ねて、メモをさせる。	◦満足感が感じられるか。
認	7.次時の課題の確認。	◦豊かな表現への意欲を持たせる。	

7 確認の要点

- 楽しく、満足した1時間であったか。
- 「まっかな秋」の感じを出して歌えたか。
- 「まっかな秋」の歌は、好きな歌になったか。(好きになれそうか。)
- 友だちの発表で、感心したことは多かったか。

理科学習指導案

(5年2組)

指導者 友本 志津雄

1 単元名 酸素と二酸化炭素

2 単元目標

- 認知的 (1) 酸素・二酸化炭素の実験的製法がわかる。
 (2) 酸素には物を燃やすはたらきのあることがわかる。
 (3) 二酸化炭素は空気よりも重いことを確かめることにより、気体にも重さがあることに気づくことができる。
- 態度的 A 酸素・二酸化炭素の性質を、既習の物が燃えるときの空気の変化と関連づけながら見つけようとする。
 B お互いの考え方を確かめ合いながら協力しようとする。

3 教材の取り扱い

前単元「火と空気」で、空気が入れ替わらないところでは、物は燃え続けなことから、燃焼における空気の質的变化について調べ、物が燃えるのに酸素が使われ、燃えた後に二酸化炭素ができることをとらえてきた。ところが、火が消えるのは二酸化炭素ができたからであると考え、酸素が少なくなったから消えたのだという見方をしていない児童が多い。そこで、この単元では、酸素を実験的に作り、割合を変えた気体での燃え方の違いを比較するなど、物の燃え方を酸素の量との関係に着目して調べさせる。また、スチールウールが燃えた後には二酸化炭素ができないことから、燃焼における質変化の多様性にも気づかせる。さらに、二酸化炭素の発生・捕集を行ない、気体の重さについて具体的イメージを持たせ、重さという視点から、気体の性質をとらえさせたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 プリテスト 学習計画	1.プリテストから学習内容を知り、学習計画を立てる。	○学習内容を知ろう。 ○学習計画を立てよう。	1
第2次 酸素の製法 と性質	2.酸素の作り方を知り、発生・捕集し、酸素中と空気中の燃え方の違いを見る。 3.酸素中でいろいろな物を燃やし、燃焼後、二酸化炭素ができないものがあることを調べる。 4.酸素の量を変え、物の燃え方を比べ、空気中の酸素の量とそのはたらきについてまとめる。	○酸素を作る正しい実験方法を考えたくさん集めよう。 ○酸素中では、どんな物でも激しく燃えるだろうか。また、いつも二酸化炭素はできるだろうか。 ○空気中にある酸素の量を調べてみよう。	4 本時 (1/4)

第3次 二酸化炭素 の性質	5.二酸化炭素の作り方や捕集の方法を知り、その性質をいろいろな方法で調べる。	○二酸化炭素とは、どんな性質をもった気体だろう。	2
第4次 空気中の酸素と 二酸化炭素	6.空気中の酸素や二酸化炭素の割合が変わらないことについて話し合う。	○空気中の気体の割合はいつも同じだろうか。	1
第5次 ポストテスト	7.ポストテストをする。	○酸素・二酸化炭素についてわかったか確かめよう。	1

5 本時の目標

- 認知的 ○ 過酸化水素水と二酸化マンガンを使って、酸素の発生や捕集の正しい仕方がわかる。
- 態度的 A 酸素の作り方や集め方についての注意点を考えて、たくさん作ろうとする。
B 分担した役割をしっかりと果たそうとする。

6 展開

学習課題	酸素を作る正しい実験方法を考えたくさん集めよう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中 心 確 認	1.前単元の学習を手がかりに本時の学習課題を確認し、学習のめあてを明確にする。 2.酸素の製法を知る。 ・薬品、器具、手順の確認 3.実験の注意点を話し合う。 ・グループバズ→全体バズ 4.実験 ・作る→集める→ろうそくの火を入れる→結果のまとめ 5.本時のまとめ 6.次時の課題確認	○自分のめあてを持たせ、お互いに注意し合うことを意識させる。 ○ひとり学習（家庭学習）の確認をする。 ○ガラス管の長さ、初めにすてる気体の量、捕集法など実験上の注意点をとらえさせる。 ○酸素中のろうそくの燃え方を注意して見させる。 ○多様な見方をさせ、自分の言葉でまとめさせる。 ○実験について反省させる。 （ノート記録）	○課題に対して意欲を示したか。 ○ひとり学習が充分なされているか。 ○実験の注意点を意識しようとしているか。 ○器具・薬品の扱いに注意し、正しく安全に発生捕集できたか。 ○次時へお学習意欲が持てたか。

7 確認の要点

- 酸素の発生・捕集について注意点が言えるか。
- 酸素がたくさん集められたか。
- 自分の役割がしっかりと果たせたか。
- この次の学習が楽しくできそうか。

算数科学習指導案

(6年 1組・4組)

1 単元名 平均とちらばり

2 単元目標

- 認知的 (1) 平均やのべの意味を理解し、平均やのべが求められるようにさせる。
 (2) 度数分布表や柱状グラフを読みとり、度数分布表や柱状グラフに表すことができるようにする。
 (3) 以上、以下、未満の用語の意味を理解し、これらを用いることができるようにさせる。
 (4) 一部の資料の割合から全体の傾向を推測することができることを理解させる。
- 態度的 A 度数分布や柱状グラフ等の資料を活用する時、統計的に考察したり表現したりしようとする。
 B 自分の考えを進んで示し、みんなで求めて考え合おうとする。
 ・話の要点や問題点、共通点などの確にとらえて聞いたり話したりする。
 ・互いの考えをよく理解し順序立てて考えようとする。

3 教材の取り扱い

この単元に関連する学習は、すでに4年生で学んでいる落なく重なりなく類別したり、およその数にしたりする学習や、5年生の単位あたりの理解、人口密度の意味などを学習している。ここの学習では平均という意味を身近な資料を通して理解させ、資料の持つ特性を読み取ったり、あるいは1部の標本的な資料から母集団の特徴を推測して全体の傾向をとらえたりするなど、統計的に考察したり表したりする能力を育てたいと考える。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 平均とのべ	1.学習内容の概要を知り学習計画を立てる。 2.平均とのべの意味を理解し のべや平均を求める。 3.体重や身長測定の結果から のべや平均を求め、平均の 意味を深める。	○プリテストを行い、学習課題をつくり 学習の見通しを持つ。 ○のべや平均の意味を知る。 「この表は、バスケットボールの試合 でシュートしてボールが入った回数です。 どちらの組がよく入ったか調べよう。」 ○グループ別体重、身長測定の結果から どのグループの平均が大きいかを調べ る。	4 6の1 本時 (2/4)

	4.練習問題をする。	○平均やのべの練習問題をする。	
第2次 ちらばり	5.記録全体を表にして、その特徴をとらえる。 6.集団の傾向をちらばりに着目してとらえる。 7.度数分布表をかき、以上、以下、未満の数を理解する。 8.度数分布表を調べて集団の特徴を理解する。 9.柱状グラフをかき変化のようすや特徴を理解する。 10.一部の資料から全体の傾向が予測できることを理解する。	○ソフトボール投げの記録を全体の様子が見える表にかいて特徴を調べる。 ○表からどちらの組の記録がよいといえるか比べ方を考える。 ○ソフトボールの投げた距離を5m区切りの表にまとめて、だれが、どの範囲に入るのかみつける。 ○距離の区切りに分けた表から各組のちらばり方のちがいを調べる。 ○ソフトボール投げの距離と人数を柱状グラフにかき変化のちがいをみつける。 ○2組の走り幅とびの記録から、その特徴を調べて6年全体の傾向を考える。	6 6の4 本時 (2/6)
第3次 まとめと 練習	11.平均とちらばりに関する練習問題をする。 12.評価テスト	○度数分布表や柱状グラフを読み取ったり、かいたり、一部の資料から全体を予測するなどの練習問題をする。 ○プリテストや転移テストを行い学習反省をする。	4

5 本時の目標

- 認知的 ◦ のべや平均の意味を理解し、のべや平均を求めることができる。
- 態度的 A いくつかの数をならす考えで図に表すなどして、1あたりがどれだけになるかを考えようとする。
- B 順序立てて話すようにし、要点をとらえて聞こうとする。

6 展開

学習課題	のべや平均の意味を知るため次の問題を考える。 「この表はバスケットボールの試合でシュートしてボールの入った回数です。どちらの組がよく入ったか調べよう。」		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準備	1.学習課題を確認し、問題場面について話し合う。 2.紅白どちらの組のシュートがよく入ったかの問題を各自で自由に考える。 ◦各自の考えをグループで出し合い、よく入ったと決めたわけを話し合う。	◦紅白2つの組のシュート回数の表を示して考えさせる。 ◦シュートがよく入ったと決めた自分なりの根拠を持たせる。	◦学習の進め方がわかったか。 ◦根拠を持っただか。
中心	◦各自の考えをグループで出し合い、よく入ったと決めたわけを話し合う。 ◦1試合あたりのシュートの数をならして考える方法をもとに、のべや平均のわけを全体で考える。(紅組)	◦シュートがよく入ったと決めたわけをいろいろに考えさせる。 ◦紅組で、シュートの入っていない0の時どうするかを考えさせ、のべや平均の意味をわからせる。	◦話し方、聞き方、考え合い方はよいか。 ◦のべ、平均の意味がわかって計算しているか。
確認	3.白組についてものべ回数や平均を求める。 4.のべや平均の求め方がわかったか確かめ合う。 5.次の学習課題を確認する。	◦白組も紅組同様計算し両方を比べて考察させる。 ◦確認バズをしてより確かにさせる。 ◦のべや平均を求める学習課題を予告する。	◦学習の確認や反省がうまくできたか。

7 確認の要点

- 漢字のテスト結果ののべと平均を求めてみる。
- のべ、平均とはどんなことかをノートにかく。
- 順序立てて話せたか、要点をつかんで聞けたか、ノートに反省をまとめる。

(6年4組)

指導者 谷 一 美

5 本時の目標

- 認知的 ◦ 集団の傾向を見るとき、平均だけでなく最大値・最小値・中央値・最頻値などいろいろな比較ができ、ちらばりからも調べられることを理解させる。
- 態度的 A 表からいろいろな比較の仕方を見つけ出そうとする。
- B 根拠を持って自分の考えを示し、友達の考えと比べながら聞こうとする。

6 展 開

学習課題	表からどちらの組の方が記録がよいと言えるか、比べ方を考えよう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中 心 確 認	<p>1.学習課題を確認する。</p> <p>2.ひとり学習の確認をする。</p> <p>3.比べ方について各自の考えを出し合って、どちらの組の記録がよいと言えるか話し合う。 (グループバズ)</p> <p>4.◦1組・2組の特徴を明らかにする。 ◦平均値で比べるだけでは不十分な場合には、ちらばりの大小で集団の傾向を見ることを知る。 (全体バズ)</p> <p>5.本時の学習の確かめと反省をする。</p> <p>6.次時の学習の確認をする。</p>	<p>◦自分の考えにわけをつけて言えるように確認させる。</p> <p>◦グループとしての意見をまとめさせる。</p> <p>◦平均値・最大値・最小値・中央値などやちらばりのようすから組の特徴を比べられることに気付かせる。</p> <p>◦表でちらばりの大小を確認し、ちらばりの小さい方がそろっていることをわからせる。</p> <p>◦ノートに学習のまとめをし自己評価をする。</p> <p>◦次時の学習課題を確認させる。</p>	<p>◦本時の学習の課題が持てたか。</p> <p>◦ひとり学習ができているか。</p> <p>◦いろいろな点に着目して比べられたか。</p> <p>◦友達にわかるようにわけをつけて話せたか。</p> <p>◦友達の意見を聞き、それについて質問や意見が言えたか。</p> <p>◦ちらばりの意味や調べ方がわかったか。</p> <p>◦自己評価ができたか。</p> <p>◦次時の学習がわかったか。</p>

7 確認の要点

- 各班のテストの結果表を見ると、平均点の同じ班がいくつかあります。ちらばりのようすからどの班がよいと言えますか。
- 自分の考えにわけをつけて話せたか。
- 友達の考えをしっかりと聞きとり、それに対する質問や意見が持てたか。

社会科学習指導案

(6年2組)

指導者 野瀬 隆

1 単元名 明治維新

2 単元目標

- 認知的 (1) 明治政府が近代化を押し進めた政治方針を理解させる。
 (2) 国民が政府に自らの権利を求める運動を行なった理由をわからせる。
- 態度的 A 資料(年表・絵図・グラフ)を通して社会事象を想像し、判断しようとする。
 B 先ず自分の考えをしっかりと持ち、友達の考えを尊重した発言ができる。

3 教材の取り扱い

子供たちの中には明治になって日本はすぐに近代国家となり、その新政府の力は絶対的なものとする傾向にある。そのため本単元では、その過程にはいろいろの手續きと時間がかかったことを知らせ、考えさせるとともに、その犠牲となった人々が数多く存在し、近代国家が成立したことを理解させたい。そしてその過程では国民の権利を求める運動があり、民衆の団結した力があつたことを考えさせ、その思想が受け継がれたことをわからせたい。

今日までの6年生としての歴史学習は、華やかさとそれをささえた農民(民衆)の力、この両者をとらえてきた。この時代も明治維新・文明開化という華やかさと自由民権運動という民衆の力を考えさせ、視点によって歴史観のちがってくることを知らせるとともに、両方の立場から物を見られ、考えることのできる子供に育てたい。

なお、本単元では6年生の子供が近代の日本全体を見通すことは少々無理ではないかという判断で前半(明治維新・自由民権運動)、後半(条約改正・富国強兵・殖産興業)と分け取り扱うことにした。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 計 画	1.学習内容の概要を知り、課題意識を持つ。	○プリテストをしよう。 ○教科書を読み課題をみつけよう。	1
第2次 明治維新	2.江戸時代と明治初期を比較し、明治維新を考える。 3.地租改正の役割を考え、農村の変化の様子について調べる。 4.文明開化について調べる。	○国の様子を江戸時代と明治初期とを絵図から比較してみよう。 ○農民や農村のくらしは地租改正によってどのように変わったか、3つのグラフからまとめよう。 ○絵図から文明開化とはどんなことかまとめよう。	3 本時 (2/3)
第3次 自由への たたかい	5.自由民権運動の運動過程とその考え方を調べる。 6.明治憲法の成立過程を調べ、その基本的な考えを知り、成立の意義を考える。	○自由民権運動とはどんな運動だったんだろうか調べてみよう。 ○日本は明治憲法ができてどんな国になったんだろう。	2

5 本時の目標

- 認知的 ◦ 明治維新によって農民・農村の生活はどのように変わったかを地租改正を通して理解する。
- 態度的 A 3つのグラフから地租改正が農民に与えた影響を正しくつかもうとする。
B 友達の考えにつないだ意見を言おうとする。

6 展開

学習課題		農民や農村のくらしは地租改正によってどのように変化したか、3つのグラフから考えよう。	
区分	学習活動	指導上の留意点	評価
準備 中 心 確 認	1.前時の復習をする。	◦前時の学習を振り返らせ、本時の導入とする。	◦前時の学習を振り返れたか。
	2.課題の確認をする。	◦本時の学習は地租改正とはどのようなものか、またそれによって農村はどのように変わったか考える学習であることを確認する。	◦本時の学習することを知ったか。
	3.3つの資料を読みとる。	◦3つの資料は何のグラフかはっきりさせ、正しく読ませる。	◦資料が読みとれたか。
	4.地租改正後の農村のくらしを考える。 ひとり ↓ グループ ↓ 全体	◦地租改正とはどんなものであったか調べさす。 ◦1のグラフからは政府の財源は農村にあり、その重要性をわからせる。 ◦2・3のグラフからは農民・農村の苦しさを考えさす。 ◦友だちの考えにつないだ発言をさせる。	◦地租改正の意味がわかったか。 ◦なぜ、どうしてという疑問が持てたか。 ◦友だちにわかりやすく説明できたか。
	5.確認バズ	◦課題をふり返らせグループで確認の話し合いをさせる。	◦まとめの話し合いができたか。
	6.学習の要点と次時の課題を確認する。	◦学習のまとめと反省をさす。 ◦次時の学習課題を確認する。	◦地租改正の意味と農村の変化を理解できたか。

7 確認の要点

- 農村のくらしは地租改正によっていかに変わったか。
- 資料から自分の考えを持つことができたか。
- 友達の考えにつないだ発言ができたか。

理科学習指導案

(6年3組)

指導者 小倉玉子

1 単元名 力とてこ

2 単元目標

認知的 (1) てこのつり合いは、力点と作用点にかかる力と支点からの距離に関係することがわかる。

(2) 輪軸や滑車は、てこの原理を応用したものであることに気づく。

態度的 A てんびんの学習や算数の比例関係などを生かして考えようとする。

B 班で協力して仕事を行い、友達の意見を取り入れて考えようとする。

3 教材の取り扱い

前学年までにてんびんの学習をしており、その中で、物の重さがばねののびによっても測れることを学習している。子供たちは遊具やおもちゃを通してつり合いを身近なものとして感じ、つり合わせるための工夫を知らず知らずのうちにしているものである。しかし、その規則性に対しては、非常に曖昧である。したがって、本単元では、実験を通して規則性を見つけだしていくことを大切にしたい。

また、身のまわりにあるてこを利用した道具を探し、応用の広さを知ると同時に身のまわりにあるものを科学的に見ようとする目を養いたい。

4 学習計画

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 学習計画	1. プリテストや教科書から、内容を知り、学習計画を立てる。	○ プリテストをしよう。 ○ 学習課題をつくろう。	1
第2次 重い物を 小さい力 で動かす	2. 重いものを小さい力で動かせる方法を感覚的にとらえる。 3. てこの意味と各部分の名称を知る。	○ 砂ぶくろを小さな力で持ち上げよう。	2
第3次 力の大き さと重さ	4. 力の大きさをばねののびやおもりの重さに変えて調べる。 5. 実験用てこのつくりとはたらき。	○ 砂ぶくろの力点に加わる力の大きさを調べよう。	2
第4次 てこには たらく力	6. おもりの位置によって腕の傾きが変わることに気づく。 7. てこがつり合うとき「おもりの数×支点からの距離」が等しいことを見つける。 8. てこを利用した道具を探し、力点、	○ 実験用てこにおもりをつるし、つり合い方を調べて記録に残そう。 ○ 実験用てこに下げたおもりがどんなときつり合うか調べよう。 ○ はさみやくぎぬきの力点、支	3 本時 (2/3)

	支点、作用点を見つける。	点、作用点はどこだろう。	
第5次 てこに似 た道具	9.輪軸のはたらき 10.滑車のはたらき 11.ポストテスト	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 輪軸について調べよう。 ◦ 滑車はどんなところに使われているのだろう。 ◦ ポストテストをしよう。 	3

5 本時の目標

- 認知的 ◦ 実験用てこを使って、てこが水平につり合うとき「おもりの数×支点から距離」が左右で等しいことを見つける。
- 態度的 A おもりの数と支点からの距離に目をつけて考えていこうとする。
B 友達の意見をよく聞き、自分の考えを整理しようとする。

6 展 開

学習課題	実験用てこに下げたおもりがどんなときつり合うか調べよう。		
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備 中 心 確 認	1.課題を確認する。 2.前時の実験からつり合うときとつり合わないときについて分けてみる。 (グループ) 3.つり合うときについて話し合う。 (全 体) つり合わない場合についても確認する。 4.本時の確かめと次時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 課題をしっかり意識させる。 ◦ 前時の実験をつり合うときとつり合わないときに分け、違いをつかませる。 ◦ いろいろな場合について発表させる。 ◦ 支点からの距離とおもりの数に気づかせる。 ◦ 左右の積が等しくないとつり合わないことをおさえる。 ◦ 反省(自己評価)と次時の課題を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 課題がつかめたか。 ◦ 2種類に分けられたか。 ◦ 「おもりの数×支点からの距離」が等しいときにつり合うことがわかったか。 ◦ 次時の課題がわかったか。

7 確認の要点

- 「おもりの数×支点からの距離」が等しいとき、つり合うことがわかったか。
- 班で協力し、話し合いが進められたか。
- 友達の意見をよく聞きながら、自分の考えをまとめられたか。

国語科書写学習指導案

(養育学級 1組)

指導者 成宮 治子

1 単元名 大きく書く

2 単元目標

認知的 ◦ 紙いっぱい、大きな動きで、のびのびと書く。

態度的 A 自分の力いっぱい書こうとする。

B 協力しながら準備や後始末をしっかりする。

3 教材の取り扱い

5年男子1名、6年女子1名、3年女子2名の4名の学級である。5年男子は五十音の読み書き程度で、読んだり書いたりを面倒がっていやがる。毛筆には興味をもっているが、あきっぽくて最後までできない。6年女子と3年女子N児は、簡単な漢字はわかるが、字形がうまくとれず、筆順をあやまりやすい。6年女子は自信なげで、とりかかりがおそく、作業もおそい。が楽しく学習する。3年女子N児は仕事は早い、が、粗雑である。3年女子T児は、名前の読み書き程度であるが、筆を持って書くことを喜ぶ。

そこで、このような文字の習得をにがてとする子どもたちに、毛筆で大きく書かせることにより、文字意識を高め、文字を書こうとする意欲をもたせたい。また、筆にいっぱい墨をふくませ、紙いっぱい黒々と書かせることにより、毛筆による表現の楽しさを味わわせ、書けるという自信をもたせたい。

区分	学習内容	学習課題	時間
第1次 筆の使い方	1.毛筆用具に使いなれる。	◦大きなまるやせんを書こう。	2
第2次 漢字	2.書こうと決めた字を、紙いっぱいに書く。	◦自分で決めた字を紙いっぱいに書こう。	2 本時 (1/2)
第3次 漢字とひらがな	3.漢字とひらがなのことばを作って、紙いっぱいに書く。	◦自分で作ったことばを紙いっぱいに書こう。 ◦てんらん会をひらこう。	2

5 本時の目標

認知的 ◦ 紙いっぱいに、大きく書く。

態度的 A たっぷり墨をふくませて、腕を大きく動かして書こうとする。

B よくできたなとほめあいながら学習を進める。

6 展 開

学習課題		自分できめた字をかみいっぱい、大きくかこう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備	1.場所を決めて、毛筆ができる用意をする。 2.どんな字を書くのか決める。 3.自分の決めた字を書いてみる。	○場所をつくり、書く意欲をかりたてる。 ○能力に応じた字を、大きく書かせる。	○準備はできたか。 ○自分の書く字がわかったか。
中 心	4.自分の書いた字の中で、どれが一番大きく書けているか見つける。 5.4人で見せ合う。 6.筆にたっぷり墨をふくませてもう一度書く。	○紙のはしから思いきって書かせる。 ○からだ全体を使って書かせる。 ○ひといきに書くようにさせる。 ○課題をふりかえらせる。	○大きく書けた字が見つけられたか。
確 認	7.めあてどおりに書けた字をえらぶ。 8.次時の課題を知る。 9.後しまつをする。	○大きく書いた事実を認識させる。 ○次時は、もっと大きな紙に書いてみようと言おう。 ○筆や残墨の後しまつをていねいにさせる。	○大きな字が書けたか。 ○後しまつはできたか。

7 確認の要点

- 大きく書けた字が見つけられましたか。
- じゅんぴや、あとしまつがしっかりできましたか。
- よくできたねと言えましたか。

生活科学習指導案

(養育学級 2組)

指導者 大川 せみ江

1 単元名 風 車

2 単元目標

認知的 ◦ 風車を作って、風車の回る様子を調べ、風の強さによって風車の回り方が違うことがわかる。

態度的 A ◦ よく回る風車を作ろうとする。

◦ 風車の回る様子を調べようとする。

B 声をかけ合って、思いを伝えようとする。

3 教材の取り扱い

対人関係がもちにくく、話し合いもまだできない自閉的傾向の強いM児（4年男子）と、みんなの前では委縮して硬くなり、何もできずに黙り込んでしまう場面緘黙のT児（3年男子）と、欠席の非常に多い虚弱児のK児（3年女子）の3人の学級であり、まとまった学習はできにくい。

風車は動くものであるから、この子どもたちも興味深く取り組んでくれるのではなかろうかと思って、この単元を設定した。

そこで、この単元では、風車を作って回す生活経験を与えて、風が強ければ風車が速く回ることを、この子どもたちなりにとらえてくれればと願っている。

4 学習計画

区 分	学 習 内 容	学 習 課 題	時間
第1次 風車作り	1.風車を作る。 2.作った風車が、よく回るようにくふうして改良する。	◦よく回る風車を作って、回そう。 ◦もっとよく回るように、くふうしよう。	2 本時 (1/2)
第2次 風の強さと 風車の回り 方	3.風車は、どんなときよく回るか調べる。 4.風車を使って、風の強さや向きを調べる。	◦風車がよく回るのは、どんなときでしょう。 ◦風車を使って、風の強さや向きを調べてみましょう。	2
第3次 いろいろな 風車	5.いろいろな形の風車を作って回す。	◦もっとちがった形の風車を作って、回しましょう。	2

5 本時の目標

- 認知的 ◦ よく回る風車を、身近な材料で作ることができる。
- 態度的 A よく回る風車を作ろうとする。
- B 「回った」「ありがとう」などと、声をかけ合おうとする。

6 展開

学習課題		よく回る風車を作って、回そう。	
区分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
準 備	1.風車を回す演示実験を見て、本時の学習課題をつかむ。 2.どんな材料で作るか。 3.どのように作ったらよいだろう。	◦教師が回すだけでなく、児童にも回させる。 ◦紙の質、大きさ、色、竹ひごの長さなどを選ばせる。 ◦示範の風車をよく見させて作り方を分からせる。	◦課題に取り組む意欲はみられたか。
中 心	4.風車を組み立てる。 ◦羽根に切り込みを入れて、折り曲げる。 ◦2枚の羽根を十字に組み合わせ、接着剤でくっつける。 ◦コルクセんに竹ひごをさす。 ◦羽根を押しピンで、コルクせんにつける。 ◦竹ひごを ストローに通す。	◦羽根のどこに切り込みを入れるのかに注意させる。 ◦羽根の中心を合わせて組み合わせるように注意させる。 ◦コルクセンの中心に鉛筆で印をつけ、竹ひごを中心にまっすぐ取りつけるようにさせる。	◦羽根は正しく折り曲げられたか。 ◦竹ひごは中心にまっすぐ取りつけられたか。
確 認	5.でき上がったら、回してみる。 ◦口で吹いて回す。 ◦走って回す。 ◦自然の風で回す。 ◦送風機の風で回す。 6.次時の予告	◦走って回すときは、テラスへ出させ、ぶつからないように気をつけさせる。	◦うまく回るように作れたか。

7 確認の要点

- 風車は よく回ったか。
- 声をかけ合うことができたか。

のぞまれる学力

滋賀県教育委員会事務局

学校教育課 参事 水野 清 先生

1 戦後からの教育内容 (今までの学力)

(1) 昭和20年代

生活経験の重視.....生活・社会の改善

(2) 昭和30年代

系統性の重視.....科学・技術の向上

(3) 昭和40年代

構造的把握の重視.....産業・経済の発展

2 今後の教育内容 (のぞまれる学力)

人間性の重視

人間の尊厳性 厚生主体

(1) 知徳体の調和

○基礎的・基本的内容の重視 (学習のための意欲・能力の涵養)

○自己充実 (個性の伸長)

(2) 社会連帯意識に基づく実践的社会性

○主体的社会化 (文化化)

单元単位の見通し学習

中京大助教授 杉江修治先生

- 1 单元単位を見通した学習の概要
- 2 单元単位を見通した学習の教育心理学的意義
- 3 单元単位の見通しのための学習目標・学習課題の設定
- 4 单元単位を見通した学習の具体的な指導課程の工夫
- 5 单元単位の見通し学習の評価手続き
- 6 バズ学習研究の今後の課題の展望

小集団による話し合い学習

滋賀大学教授 高旗正人先生

- 1 これからの授業のめざすもの
学力づくりと集団づくりの統一

- 2 小集団による話し合いの機能

「小集団の機能」

		(+)	(-)
学力 づくり	思考 学習効率 定着率	深化 高い 高い	表面化 低い 低い
集団 づくり	学習活動 風土 人間関係	全員参加 支持的 目的協同	かたより 攻撃的 競争的

- 3 小集団学習の方法の開発を

プラス機能の強化とマイナス機能の解消のための実践的研究が必要である。

子どもの自己評価

本校教諭 高村 博

1 わたし達の目指す「即時自己評価」とは

即時自己評価とは、学習活動の過程で、子ども自身が自分の学習状況を振り返り、自己評価を行うこと。学習活動の過程で、子ども自身が自分の学習状況を振り返り、自己評価を行うこと。

2 即時自己評価をうながすために

- (1) 子ども自身に目標が持てるようにするとともに、評価項目は具体的な観察可能な行動の意味で表現する。
- (2) 認知的・態度的目標を設定し、その同時達成を図るため、子どもの積極的な相互作用を重視する指導方略を考える。
- (3) 学習効果の判定法としては、認知的目標の評価法としてはプリ・ポストテスト方式、態度的目標の評価法として参加度・満足度の測定等で行う。
- (4) 各教科、学年→学期→単元→本時と観点別評価項目を設定し、その評価方法を選択する。

3 通信票「あゆみ」にも自己評価を導入して

通信票「あゆみ」にも自己評価を導入して、学習活動の過程で、子ども自身が自分の学習状況を振り返り、自己評価を行うこと。